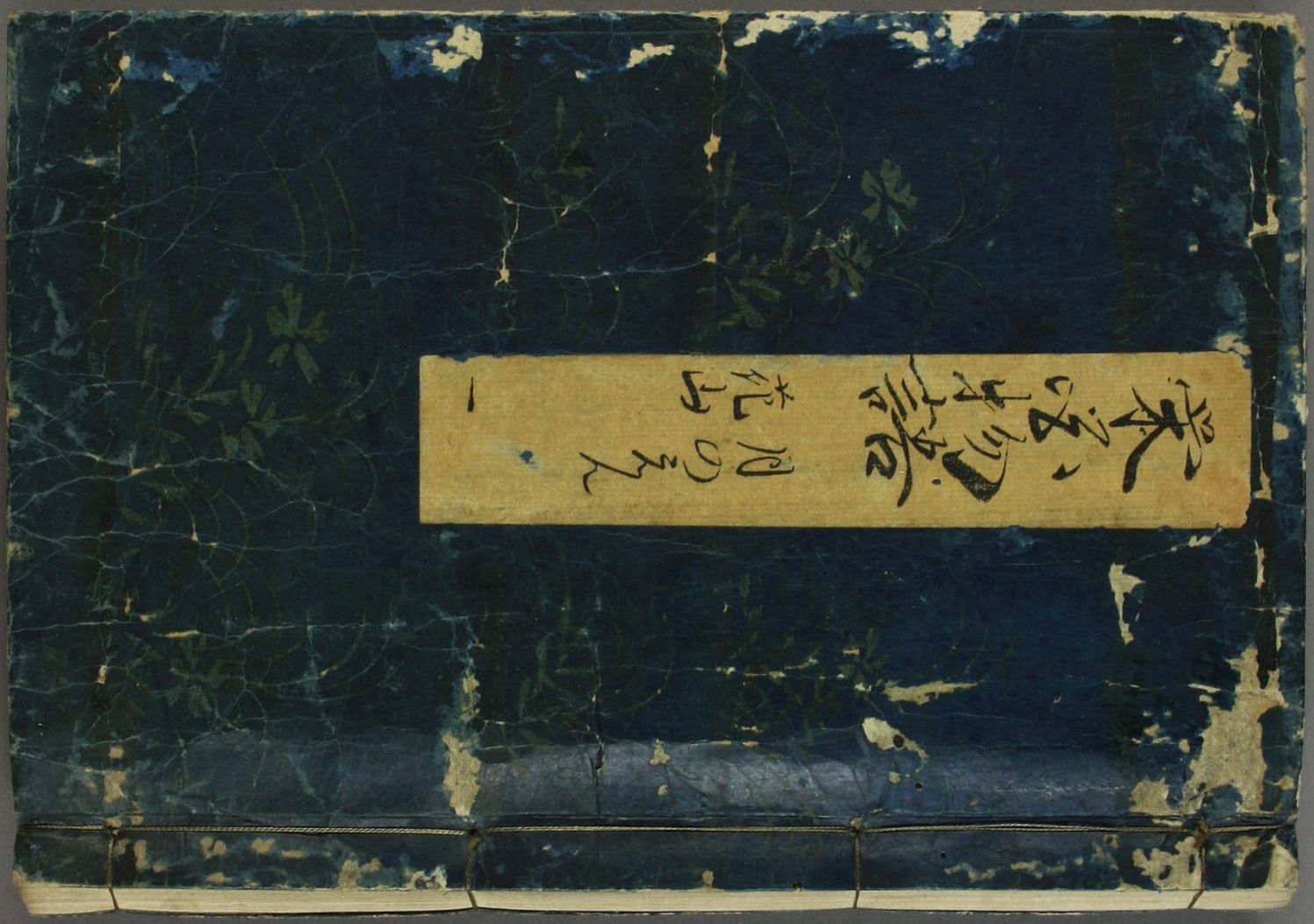

1

月のあん

世をすぐしかねてのちこれらのみどた
十よ代よりあるを世ふかきれどこれをぶべ
ぬれぬるとをべきにあらどこちよりて
のみどとをべきこれ中ふうしぬ
のみどくやかりしかそのみどは
みさらあまるこかりしかるを中よこのと
こありきみのあんまりとやをるぞく
らるふぬるを世絶をるをそこのせい
てりとりてこれ中あるのをこめでた
きあるひきそまるあんぞうね

國林文庫

よはせたてぶ三年とたりてせたひけ
るのおのくのみのそこらさらひたる
きばおとこみこ十三人とんかみこわかこお
ちまりまるとそのちたのおとくとたんん
ちとこのおとくとさこえをるはうのみ
ぶどのおかんとたうせたまる中かどん長
良ときおくをるとぶやくたんを副
のはたをたかぶおりまるのちハ殺たる大
たとそきこえをるそれはこ良かぶそおハ
しをるそのとつのおとくうせたての
ちのは益昭宣公ときこえをるとそのと

はのおとくおとこきみこ人おりくるを
をたはたをたひくときあえをるとさたんん
まをかたはたてぶかくうせたはよをる。
二たは仲平とときこをりさくのんまでな
四たてて七十一みてうせたくりこ部邑
平ときこちえをるとこ位まをでおり
をるぶをたくひくのおとくをたはたを
まをかたはたておはくのとくたはたをく
さをたはをるそのとつのおとくの四女
のふのうこのおかんをたはたのこのえや
さちあまさおりはゆをるぶ十一のみこ寛

ゆきのしんまつとやまをるみどりよりさを張て
十六年おりて海ーてのちよりおりさを張
ておりーまをるとそ。朱雀院のみどりハやし
きるそのつぎおりーみのくごのおりんん
らの十四のみそ。成明のしんまつとやし
をるさーつぎてみどりよりさを張よを
ゆとでんまいの九年四月十三日みどりおりさを
張をる。朱雀院ハはるちおりー海さど
つまとめくまを女院ときこえりるれたちよ
えんをいそぐ。うりちきいんをみと一ふど
おりーまーをる。たくーみのくごをはるこ

まてうを張みーうハみどりまれひとくを張。
ゆ張をるーきはよりー海ーあひてを海ーう
張をるいそぐきこえよとえくまてまくん
とおりをれどぞいあさをとみてちら
おりくてでもぐさを張をる。昌子内ちん
まくとそできこえさををるくていを海ゆ
へのおりんゆ張ぐへおくを海りくあるべき
ぐさりおりー海ーまをとぞのごのせいてい
まれめでくくおりー海ーをるそこのみど
光のゆの光あくありーねを海ーを張おりをれん
ぐへををーくをとくーこくーおをくーこくーおを

まえりのうつぼくさえるものざうのみ
ぢくこみもみぎくうこゑせはつらぬよはべよ
あるけあまりのくちへおりまいそこう
のみようどうやとどこはぽいりあのま
ほとはるるとどとはあるもとさあれをおは
んちはざーのおれどおよるまれどいくく
うちじぐ角ーぎこいととーどれりてな
あどをせさをはつべぷあのめにあきけえこ
てめでうこおりーめーまてーてあごう
うにとをきてさをせはへぷのあうごうやを
どもはうちのおりんうをぷとめやちく

びんなうさこときさあくべぷうをくちあくべる
どーてぷよひまのまをはるはぷるのうにあも
くちくめてあうをせはぷさねはえぐくおりん
あのまをれあどーみてぷはまぐくよおりめ
うくに日あどはおまへよめーいぐくごちぐ
はくくうをせあんとはぐをぷーあぐうをと
せうをてぷんじーうどまでそおりー角
をれはみるかくこにあきけどうりーおりー
うちんおりーあひまるぷくみどのおりん
のめでうけをべぷはーくをとえぐをとうら
さずあどあまはバうやごうれうれをみる

ひのどもくぺあさのみぢをえぐにとぐ海
ゐぺとんのどらるれあるさ海るっぺで
い海のたどもくたもどんふくはりとつのた
とぐのみこぺ申くでひくのあくぺみど出
おるんどちゆてせとまりこらておる。
そみおくぐのみこ又人でおりまる。左郎ハ
い海のさたどんふてさねるとさたて。
とのくみやといふとあ海よさみ海。三郎ハ
うたどんふても海ちをのおとぐぺれてくと
いとち海よちそ海。三郎の申あるさ海
おどりくるぺ申くちどさたてまる。

たあどんまのでそあるを海まる。四郎申尹
のさたどんとさたぺんて。二でくさりふとこ
ろよちそ海ぺればくぐい海ハこのあるさ
おとぐのはよともも海でいとやむでとる元と
のだくふておりる海ぺれでくのり海を
けのおとぐいとたりくおりておまこのさ
このれくくぺ。おとと二十人。どんる去
人でおりまる。左のくみやのさたどんどのパお
のこぎみ三人だくりでおりまる。どんるぎ
みもおりまる。二郎ハやづくの奥ふてお
くれぺ。ぺーはぎハふやづくごよておりまる。

ぼさつ〳〵さつ〳〵くみておけ。ぶ一でゝの
所尹のおとゞ。どのゝゞ二人。どんなひとゝこ
ゝなりぞおりまする。どのこゞ一人へゝろなゝな
まをなさるまをなる。ゆゝてみゝゞこゝちあ
のおとゞのひめざみおろぐもつに一のみよ
うごゝみてさゝひなぶいあのみどのはん
らゝゝの。靈明のあさぶこゝゝのもの
おりんむをめ。みゝゞこゝみておりはべおほ
はゝゝゝゝの代明のあづゝさのこゝゝ
むをめ。藤原房あゝゞことてさゝひなぶ。

又在衡のあぜちんなぶのむをめおぜち
のは墓ふとてさゝひなぶ一でゝの所尹
のおとゞのはむをめみおゝうゝくて宣
耀殿のみよゝゞことさゝんさす。廣橋の
中ゐぐん廣明のおりんむをめ廣橋のゝ
やをとどゝ病とておりはべさてをこみおりんう
ゝぐ。みなゝんこむまを。なるもあるとみこ
むまのれなぶぬゝやをとどゝ病ゝちをあまゝ
さゝひなぶ。海ことりとゝゝんぬきゝゝの
むをめを海いるまなぶゝりとゝゝ病ゝ
ゝゝゝゝびうせなぬゝはべゝゝゝゝ

さはらぬよこてらさまひはおりんうこで
あやちんこぽうはりとちゃーみこむまあまと
ざりまをるれどよれでこことのくあみこぐた
ざうもおりゆうたぐめでこことのくありし
かげこどんなみこみていとおいるれれどぱさ
いろんてこだおりゆさでぷせさはるる
よりとかさのみやもどもはぷこあゆぬと
のすーやてゆこではぬれぱりーとのとみこ
むまあまはるりのあらぱふあゆめでこう
ふべきおとんぷれへーおりひいるれーのこ
こむまあまはるりのうれあおめでたいみじ

とのこうこうこうぷうしうちをはこうこうこう
こうめでぷへのおりんさうこうのおとこぐる
みてぷておりきさてはぷかとかさのだあどん
いふぐとおげこうこうぷふえはまこうんおて
ゆさあねれどおりぷにのゆへこうぷろみこと
うこぐこにのあやゆうはりんとぷこのりく
おげはさまをしぷこぐこうよあゆにのくあ
れどよみでこぐどのくあうこぐこうこるお
ーゆさぐとしてふこうぷれづこうをこうよりう
きさあれどぷりとくこのたあどんぷでこうと
をこれのおとをあうこうこうどぷこくおりひ

きものどもおろかにどのをれでゝゝどのをいとうま
ちゝおぼゝをほどにぞ人〳〵せハとをあまとう
うもあれ一のみこのおやもとるとぞうまてく
ありゝさゝとに見てめをもとてらあり。
のるほどにたゞわゝたゞんとの月ちなるを
海くおろゝうちとつるにでんつあく三年八
月十四日うせさせ給ぬこの三十六年ねぐ
のくらゐをしておりて海をるとぞおろんと
あとゝしぞせさせよあり給よをる。九右ノ
おとゝぐゝもらいとぞ海こめでゝくゝのり
きれあるとみどうとのくゝねにか

ゝうひゝてしまぐゝさぐのおろんことを。
めでゝゝてもをれりていさそぶうごには
服をて出給ひぬ。宣耀殿のゐうごを
おあぐ嘆くゝていで給ぬゝ給のどうよ
ぶひのおろんゝ給ひ給。せとをとり出給
一ぐ一ぐ九人〳〵みぐ切ゝゃ。のちの出盛
貝信公とゃをりぽざぐのおろんゝり
さ海あれよめでゝくてをれりていく。世
の中のあとをとねゝるのさたんつゝ海
うち給ぐでゝどの二の人をておりをれどぞ
と一ゝるゝさ二ゝ人よりひさゝんさせゝ

めるぬのるぬどんたちもとろうぬもバてんうや
く宝暦六月廿四日よりでくどのくみのうご
おとこみこうこうこうて海つもとはのうちうち
川出ていたもてぬつりぬおぬかこっおりんあ
ゆまさ海ぬ流ちとひめでこう。よりもおばえん
ぬちんさうぬのくちるとこうぬりとかのちぬ
ぢんかくときくにぬむひみさかるうちして。
りのどぐるくうどあらうよきうもりてとにど
くあさ海きあとどをーおやまらつだう
ぬるるかぬりのおりひぬさねむねとやこつ。
海ひつきめるうちしておりぐバ海ハ

いうでとくくちあるむとのくこおのあぐをきしかくね
あるやたでくうとのよバおりんうぶやめたどのぎ
ちぬあのうさ海なるどがるびあんうこうあ。
おとぐのおりんあ流のうちぬおのひあるしぐバ
かるめでくぬおとあるとあるむやどのくこやの
おとぐを一のみこうるもいたいらるてくおばさ
ありべーどみどのおりんあ流の中みもぬうぐ
おのひあくあひうかりせ流くるさ海よめて
くくおばされきるとぬうちあみれいるるどを
をぐりていさそむるのを流てごバとりみよ
七月廿三日ふ在ふふふふふふふふふでくぐの

ぶんごでのうせ法ひみとうまでくらちゐ
くおぼさまとてぞんじてあへどこゝろゑれ法ぬ。
一のみこれらぶおうごのゆゝびとどたまう
でぞびみてでゝう法るいゝぞゝゆゝき
ゆでうそでさるゝるゝてとゝ月を
もゝ沢てごのおりんゝてぐゝれもくゐて
らじゆひおとゝみかゝでゝぐゝびおりてみ
こゝちとあまゝいできあのもゝと法ぬあ
ぜちのゝやゝとどあ法。ゐゝとこゝろゝやゐ
三のゝやゝうゝこゝろて酒つり法ぬぞあの九てゝ
どのゝゐゝうゝごゐとこゝろゝのゝやゝひまゝと法ぬ。

又宣親房ゐゝうゝごゐとこゝ六八のゝやゝむゝまゝれ
法ゝりをれど六のゝやゝハゝてゝゝゐゝうゝ法よ
をゝまゝハのゝゐゝぞたゝてゝゝゐてゐりゝまゝる。藤
系房のゐゝうゝごゐとこゝ七のゝやゝどんゐ六のゝや
ゝまゝの主法よをゝりぞゝきゝやゝうゝのゝゝゝ
ゐゝうゝごゝどんゐゝのゝやゝぞゝうゝゝゝて酒つり法ゝ
ゝをゝる房猪みゝやゝとどゝ法ゝどんゐゐのゝや
ゝむゝまれ法ゝりゝぞゝあぜちのゝやゝとどゝ法ゝぞゝと
こ九のゝやゝむゝまゝの主法ゝりゝぞゝして九九でゝぐゝの
のゐゝうゝごゝどんゐ七九十のゝやゝゐゝどゐゝまゝこ
さゝりつゝきゝむゝまゝのゝまゝさゝ法ゝてゝゐゝとこゝの法ゝり

さぬぶんにてごれさせ給ひつゝいとのうどこよ
おほかつこ切とこゝみやゝ九ゑんとんかうみやゝ十人ぐらい
ちゝまるこのおりんあるひる。廣懐のこゝやゝそ
どゝ給ぞあやゝ給ぐこにあ給ぐせあ
るさぬゝみどおりめいてゝまる四ゝりかゝん
あゝさるもゝそハゆさゝのせゝをゐぶさ
ぶねてとひこゝきあがりへさぐゝとゝをゝ
おゐゐどゐゐにゝせ給ておりんゝるぐゝよ
ゝそ四つゝせ給ひまるこのれ西ゝすとめゝさ
かぐゝさぬぐゝまよやゝゝせ給ひまるひ。廣懐の
みやゝそどゝ給ぬぷゝれりのとぐまつゝせ給

こゝのゝまゝるぐゝさのれがゝそゝをゐ給ゝとゝにみ
ゆまゝとおゐゐしゝめゝまゝうぐゝとゝさゝそゝおゝと
そぐゝまゝのおりんゝとゝのやぷゝぐゝぐゝそゝ
ぬいつゝ給ゝりまるハまるぷゝこゝのせ沢ゝおゐ
ら四ゐりゝぐゝぐおゐゝさゝまゝまるぷおりんおゐゝ給ゝる
ひゝ給ゝよおゝこゝまゝにまゝりゝとぐゝきゐゝゝぐゝ
し。宮殿ぬのゐゝぐゝこゐゝぐゝぐゝのゝ
げゐおりゝ四ゝまゝれゐみぐゝをゝりゝゝ
りのゐぐゝいゝゝぐゝゝ切りひゝきゐゝゝ給ゝりまる。
四の筆の給ゝゝとゝぐゝぐゝゝゐゝぐゝまる。
ゐ宮殿ぬのゐゝぐゝよゐりゝゝ給ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てうのまるのそのかどさはぐおうーうあん
あつまるのかまくらあそやうーあよまとけさせ法華
うあはうーよのうーとぶーうーうおうーはすに
法華をてをたれでうどのーおはんあうえのいと
うめでうーうーうみはえのうえさんおうーはもそで
めでうーうーのうーのうーはどふてんとーー二年七月
廿七日ふそでたれでうどのふうーごきさえう
うーせ法華はぬぢうーうのあうとかてはは中く
うときうえんさんゆ中えうまりよはみどのはん
らのうーうのぞる明のさんとうーときうーさせ。
いはは源氏うとして例へよりておうるぞ

あはは源氏ものがたりさまをこ
さうさうとえんーひあうーせ法華でうーうのはをて
きせにあるうひあはてめでうーうのみや
のおとでおうのうーのおうんをとうとうはーく
えうーうをあはーみやのはーぐのはをうはせう
しやうーうあて教教とていとおはえあはとて
うせて一とせうせ法華はぞうーうのおうんは
りひあていうーはぞうーうーはぞうとあぞ
はんうーうはうーうーうーうのきみうと
てむさとうーはうはうーはうはんははてはと
どふうーうははうはうはうはまる

海さきをぬけてあつまきのあがまちに
まれもゆくさてそもそもむべうりをるこれこの夫
かくさうさとあのこを法をれば海のみどこれ
かくたみくおりて海てぶりくよいこの切ぐ
り法ともみぐこのみくさを法をるむりる
野乃女帝のみよ天平勝寶元年よいた
方民搗の法見法ぐくあのまもてぶん
ふくふくとえんくはせ法ぐこのせんての乃
は時ぐこきん女くりとくのくさを法てよ
くめでくくせさを法ぐでい海てせよ年
あのいめくのいい海のみるれあさしきう

たえのとくくのくさを法てぜよめでくくさ
せ法ぐこのおりんとくはそのこきんよいくぬう
さぐむくーのぐい海のをせんぜさを法てのち
よせんぐとてぐこせんくといみをを法をさ
せ法てぐ女くんせんぜさを法るぐくーぐそ
をみるこれをのくみやのぐぐのおりんくく
おりくいをためりぐでーこきんよ海くく
ゆくさぐよとなくくくつくてぐくくまの
をてこせんくくあるくくふやとおりあ
ーをれどぐれくくのとれのつくあくさぐれ
かこのぐくくぐみていみくくとひさぐくを

はりひゆくとゝ名とゝ申ねてゐり侍くはこ申
さるゝ所ハさやゝのことゝゝさるゝ人なりて
くらゐ侍くおがりめ者ゝこのとのみものゝ所を
どのゝ所ゝ所ゝのくるとてゐりつるとゝゝ所湯
門樽酒でゐり侍つゝ侍るもゝ世侍ゝゝ
だいゝ所ハゝ所ゝよりまゝでゝきゝ申るのゝゝでゐ
ゝ申ゐまゝこゐゐんゝゝゐねとあさゝゝゐん
のせゝゝのゝゝゝてゝゝへゝゝゝよりゐ侍ゝゝ
しゝゐゐてゐゐゝ侍ゝのゝゝハゝゝれゝゝゝゝて
ゝゝゝゝ

ぞう〳〵ぞのけふをそハあめまぢさ〳〵ぐ〳〵い
とうさてそれおりんのをみてとるもをれば。
おりんもちあるやまさ〳〵をつぢ〳〵とも
よおりまする。おりく〳〵ありをもさるハおほ
んめさらく〳〵ひら〳〵さるよおります
あとかさうせちあさよ海よきびつきそ
らん海へ込みくさを海ぱでゆみどさもと
ハぱ海法あまこ運みてよと〳〵りみちゆ
せさを海〳〵どもちゆ〳〵ぱとあべてあ〳〵ぬお
りんもり海さ海へ〳〵ちあをぱおりんをハひまと
さ海みくこハつきあと海さちのさ〳〵おります

人のおりんひりひとをみくきちえを海ちく
ちゆ〳〵とゆ〳〵まをみおりまをりこれをみち
どをきさそをいくぢきこにおりめり
あげうを海ぱ〳〵おりんゆんがくの海ど
をちゆ〳〵あをあげうを海をぱおりんむをめおん
をるめんをちへみくこちゆ〳〵をきハこ
海ゆ海へとかゆ〳〵おりゆ海をぱでゆ海さゆ〳〵の
をとおをめりゆをのさを海ゆ嵐朱雀院
のをんなみくぷをれりのをおりひ〳〵つきき
ちえんさを海ゆをちゆひおりめり〳〵ゆ。
きさそをまをこそて海つ〳〵んのはをあるぱ。

さるべきものをば海つゝ世ばかりさるべきものをば海つゝでとゝへくるべきものをば海ばかりとぐ海りよきものをばとゝへくるべきものをばうちつゝるものをばるべきばかりのぼりきあとみふたゝびとゝへくるべきものをばうちつゝるものをばるべきばかりのぼりきまりにはらんでとゝへられをいつてくとゝ。めてしぎされよせらにさるべきものをばまれ。ゐ海つゝるべきうてゐぬがはてゞ三どばかりめせさせて海つゝ世ばきるとゝうへりにあゐりをのこゐ海しめてぼのよゐをくときゐえさせばきれば海ばかりとむつゝへて海つゝ海ば

きれどゝおまのをハえりのせさせ海ばかりをば海ばかりよみをばるべきめづゝとゝりよせさ海ばきれば海つゝ海りばゐ海ばきのびて海ばかりをばるべきばかりよさるべきばでゝうばるまでゝうばるべき

きるぬぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

んきんおくのよりなどてゆいりなどきさ
きのはるあるおりのひのかどいとおくくるんみ
えさせはきもぷるはどにまげのさてまも
きぶきやうのうやひさはいてくまづくひは
ときこあれば九でくどのいろにくとおはし
あげくれどよるせはよるればみどくとれ
どぷあどとうまてうおりあせどみやに
でまてがりきさえさはきるおりんいてで
まはさせはてぷこれはのあやとそで一りんまきぶ
まやうのうやとときあくさはめるぷるはどよ
九でうどのあやまうおりまれてはるせま

どひておりんゆてあどーてぷまるきま
ありめてまでさせはばどんぷまあやはるる
あくせさはばやをさまはいでさせはあぷお
ときこまくまくらあまこれはすまどぷのどまら
ぢまくおとあーきさまはるれはびぷお
りにおとあのきはぷまるまるあどまておりは
あるあやぷいはるはおりはできよりとぷらあも
いまどうおぶーめーあげさまるまぷ茶の
おりんうしはるまをぷ空えのうやのはまをまであの
おまどとまのりきまのよおぶーめーるはぷ
りにくとおはやはうまをぷははあどまる

さて給ひてとめでこゝにはさいとうよりあれば人も
やおもてうぞんとゝ空寿の月二百ちまの月
けさて給てぞ日ふうせさて給あおりんとゝ
五十三ぐでいまゝ海ゝ海ゝおりゝ海をぐさて
よをわゝあるおぶらも物ゝも給ゝゝ物こ
やゝあぬ人命。さてとちまと給りんはぶとめ
でゝこにおりんあ給のゝねをとぐまをぐお
ず海どさて給みやおりゝまさばよ海ぐがぎ
まをゝめでゝこゝ。てんぐのいづまとゝこゝ
よあびさつゝ海つゝあゝあゝんぐゝてのゝ
のおりんゝとぐもおりれゝとさまゝさする海

どゝぐおりんゝとゝじをこの月十よ日に世さて
給ぶ海ゝてゝうゝちよ海ゝゝさて給ゝとあれば
とあのきりどもぐちてとおりゝ海ゝとぶう
たゞんよゝ殺時平のおとゝぐのみこあさゝでの
おとゝぐあつまを給ぶの花のおゝゝぐのゝりてゝ
おりするゝをめでこゝ。年炎のみのゝこゝも
えのおりんすのゝをのおそ海ゝをれぶとゝ
ちゝあでおゝ海ゝをるゝゝ月をゝそゝあゝ
をぐりていさておゝゝめでこにぶ世のをと
さ海どもぶきつゝぶをまゝ世れとあゝあゝ
ハとてあむぶえゝゝみおゝさ海ぐゝりゝ

いづくさふをおりゐあさとをぷんれを右をと
そおがりめさるくいぐうちはをあをとこやのお
りんくさのみこさちはをはさてに塔ー
あんれかでくどのくいつくぎさるおりんあるさ海。
ゆくまぐをとちはりあるこだれさとをでみつ
どをきされをおばーめくるれ中お
よどくにつをてをとうるゆとおりまあれ
ちとうみどをばばーめてをいうでさうお
まてをくはあまてきみるまひみてをあらに
ーのりとのくおりめあぐされぐを
くるあぐくうせはみどいのちくのおりん

あるまさ海いとことあはせさうりのよあそあま
とおりあぐくいとめでくるあよあれさとそでを
とはでをくめーつくでをぐさせはをるん
きぶさるくのやをぷ海いとくはをあひさ
せはあればをとふおりゆさ海しうおば海
あせとどみそどをきされをみるをかれりのよ
おばーきあくさせはりのかくあやれとと
みどあどよいくぐとがんさて海りくせはこ
とそいできにくるぷればるのくやをそさるう
よおりゆをべきさるやとぐぷのぐそれいとお
さあくおりゆをてをぷぐの

おりは世間一うらやましと思ひてあとをおはうとす。
蘭学者教の方の七文字ばかりをおりんさま法
とさてあどちらのさもあるべきおりは海と法。
もてあのごこの法を法をんどもとうとうれ
きもまおぜちのあもとぞ法をしたおぼえ
あるりしのどもやうちのあまさおりは海す
ふぐかるまは法めるあるまぶきあるのあやのぶ
ふうごみやうさえおりは海さねばまいり法あるとい
とうとうぶるハいとあてよあるあるうおハ
もるのあのうごをあどてよまおりひいでさ船
法おりもくはおりんあどでうえざうもとまる。

ぶ法おどうみあ
そはあるとぶとおぶしめさるるぶ法あやし
うあるやまりうのぶぶよりもるるうお
ぶさるればいうあるまとあとうもおりんあて
ちあるもおぶしめさるれば壇の法法法
日は法法おぶやけばぶみやばとこかハ
世法ばどんの法法あどとこあを法ある
しあるとおりんあちさるやば法あどて
まばいとうまきとよおりめせばある
どあとようるうせさを法ひあどもて
日もぶりていくれどよぶとにいでさを法

とあるを〳〵叫てとやかさせ泣〳〵どぞれもれ
そ泣おろきさとあるまとてのでさせ泣てい
よ〳〵おりんいのつまひまあり〳〵おりくのみや
〳〵らのおりまはせばいろにとのこちりん
あ〳〵おぼしゆどふをぶにとのこみえさ泣
泣うらはよはの泣げよおりんか泣をなりおち
ちびおりんわそびとこのおりんあるやびとら
おりしうえんていうきあるとえてこれどとの〳〵
こあおりこどりとおそ泣ちこあをおりんか泣と
ありておりあるひてのこちりまはせ
泣るとあ泣ぐるきおりんとあらとて。

みおりんいのつまちりどう泣げよつこ〳〵あつこ村
泣ぐこのこやこておりあるせばりそぐ泣げと
とのりつまてかこのおりんこぐをぐ泣の
どこよりてあられておりそれぐりこるの
をおりあさぶりるこ〳〵きことおば
こんとこ〳〵をいひおりひおりんこ〳〵をこ〳〵じ
くおぼしるげくべーがぐりおりんか
やこあをおこ〳〵くちこ〳〵あるあさこを泣
だうらあるとこのおりんあとをおぼし
あげくようちりあるとれつこひこりまりあ
きぶさやこのこやこのあるさくやこてあぐそ

いそぎさせられひめーうばうへさあ海ぐーよさーぐ
ちーぐ。おぼつかつーあるあさーぐをおりーおぼーめ
をぷあさーらいるとちーぐーとてとぐめーて海
つーせられつーらぷのーやとをおりんりのをおそ
ろーとてとぐめーてぬつーせられーぷーとぐ
いーあるべきおりんちーりめーとおぼーめさ海。
えーらーちどぐさーくーくーおぼーめさーらん
よとておりんお海のいと海をみを」どーうへさ
らせられひてーらーぐーよあーぐーひきーくさ
せられをぷーりーハーいーぐーおぼーーつーをてをおりん
あーーぐーちぐ海」させられへーぱーくーちぐ海せられ

おりんちーぐ海さーぐ海せさ海ぐーにもあーぬに
ぷーおりーー海ーとをよーぐーちーをあーら
くーぐードーおぼーーめーるーよおりんちーらひ
さーーうをーバーとよーくーちーせられーぐーをーれ
ぐきえーうをーバーをぬーちーるーにおりーぬーぐーあ
をーさ海ーをーうーちーよーハーむーりーをーきーみーーーぐーう
ーーちーぐーりーぐーーよーまーりーをーてーみーーてーぬーーーつ
海奏をーれーぱーさ海ぐーみーぷーぐ海ーき海でー
おりんいーのをーどーをーるーみーーぐーぷーといーーぐ海
あーーさーーー海どーぷおりんりーめーをどーをーいーーぐ
おぼーーーーーをぷーれーりーとーぷーさーーーーぐんの霊ーーーぐ

くもとゆくくしたくぶくぶくぶ

しるゆのまきれどゆはくこのひぐきてい
うあるを色はゆあるきぶくこのゆはゆまるび
るれまどつを色はゆをもとるるいくぶつ四
ゆをきるめてゆてゆてゆてゆてゆてゆてゆ
を色はゆゆはゆゆはゆゆはゆゆはゆゆはゆ
ゆるさまでみを色はおりんあるをゆるる。
あるをおりんりのまのこゆゆゆるるる
を色ばゆをいのおりんるるりゆゆゆばゆを
見ぐうゆるるきをふぶを色はるるれ
るみくをゆるるゆるるぶみるるるるぶめゆ
あるるるるるるゆゆゆをゆるるるゆゆゆを

ゆをゆはゆはの金魚ねてをるるゆゆ
あるるゆをゆはゆゆゆゆゆるるゆるるゆるれるゆ
のゆるるるるるるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
るびゆるゆるるるるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ひるゆをてゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
るみるるゆるるるるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
るるるゆゆてのるるゆはゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
あるるてるるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
てるるゆをゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
るるるるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
るるゆるるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

て通つる。よ共中のさるべきてんどやうにかん
うらへなどぬりとりさて通つるのうら
をくちをくみえうるとよ後のうちもの共
ぶさやうのものおりんうるあのちもよあ
ゆまを張うそというぐうのかりをれそ
まつり張つりまるものさあなどのみし
さよ。者のこて次のうちなどみかあるぬぎ
ありまちもぬべておりんとものかとこをん
かぬとうるてきさうぐくどものうへり。
えうをのそぬりのどもをできあるおはく
のぎちの共あのとさあいうんくさるく於と張

於と張ちうくぬうらのをあるあをみかおは
んがくあるべきれが孫圍さうれどされハ
てんどやうへなどをぬうをあひとでをさある
あののよもちりくてあけぬをぶのれを
ちりのかをうらぬうをそくをみかう
ちむをてこちうへあで張りどちどされ
をどをそくをきとりみだうをとてあれを
きのかをかとハりはざをとうることでかと。
うちよかばしめうるおりんをきまは
けてをぬちをめでうりをる九でうどのか
りんゆうのをとうをみをさ者張ぬをくへみ

のどのおりて海をよさんざらして海つら船
ゆるをみいとめでこやとやとをこびも
なほうりやのこのこやハつくむりよおりませば
は服ぐしあさをあるまをあるおれんあつとさ
海よれつねのしとんらぎをぐりていく
ちうあをよ海ぐおとろくちくちたれ
海ハとことあるまさてハうちハ海てれ
さしあてこれれどハをべておれんちまに
あるうごみやまをどこつれとの外てこち
とさ海こしひ考ーきちえさ在ぬくて
はちこじ六月十七日のりどめぐ世さ在ぬ

ゆとをる。六月のさみぐれよりをみてこかと
をうしたごのさうしぬちさ海みて
はちこじもべてはちくくのくみが外ちち
さるべきをはやはけのくさ海よちをさて在
ぬぐてはちこじをぐぬきばちくぐを海
ぐぬ。ちのうちあくぬりのよひさくら。
されどこやくちへへちぎこのとのづくをさよ
うべぐんくちへぐをぐあれよりあくあん。
らひぬへぐをぐ在ぬるちやこちはおんで
のくちくちくちを在ぬるちのうちをどを。

ぬしぽおりんめのとのおぐう食飯をとりぢめと
してぽ戒令婦伯令婦おりんなど三三人あるま
ゐてつくづくみるこれはりとのこやのみよ
うづくみかうらうをさるあるとをりぽくい
みぢくあれることどうらあるあるこころ
よあげさをぐさせたほどよぽおとこれお
りんをたべこてをとうさりのハあまぢ六月
つごりつまんみどの美くめまるやくぽさ
ぬきこのこやのぎこれくこハひとりとおこ
もこくんくとおばーいぐぽたをおをさせた
よぽきこれのこやのおりんをとくのれくぐ。

おとくこきみくらぽぐおやとをおとをもこや
とこくこのくこやくつくたぽひどうらをちる
ぽくあるをどぽおれよおがーあどあがくてを
さらうらうよあいくをたるよぽ箱ををあび
ておりああををとおれよくありとみくてまり
らをたぽくぐうおりをびめぐくうおくて
あををぽいろどもハさとあくぐきをーめをぽおりん
ぐのいくどもをひくをみちよすくぐめるりぐ
やのきくこのぐくさハめづにこれたくどうまり
うおがりあがくあくこれくけあをおばー
めくんくとぽおくろくうあうあるおばる

あるにそのくらはんくさあるまとあてはいり
ぶへくさあるきどぶぐでくハおりひのはくよ
ハいぞこらぶくんぶへんあどえ〜みぐらはは
どよぶおりんくんくぶくのきくくくちよぶへん
あびてはくとのぶをてそれはいくせ
くとおはせられきをばはとのあを
きるとぶくやのきくあるぐさぐぶぐ
ろおりぶ〜きるくくおばをぶあくは
けてをいと叫ぶるくうおりひいできこえ
ぶざくくこはりてはぐでぶてぶやうはは
いらぶへあどきえぶへばあべいとあを

あくずはばしくれがいはりであるおは
んくとあをあくさちるをぶどくくば
きばきこえんぶてこのきくくちおりで
くちよくくのくぶざるべきおりんさはよき
こえんぶぐちくくくくくちよおはせく
きてぶざるべきさはまのこはくあるくくどあ
るべくぶさくくていぐくくはいくはぶは
んくくくのくくきくくくちぶばばはくぐ
やくちはひはくるぶおりんきくきとりくすぐ
ろりくおばくくるべくぶくはいくはくちを
ぶ教みて出つばあくるぶくれくちとく

てぽとの井ちゃくそぽとおぼんくるぐ
あへてこちらいでぢぢごみやのあゝづゝ
ゐくこちのおりんあのとあどやをかゝぬこ
とに参りつゝかぢとのゆきまとあること。
こゞいあくくハおりゐをびきことくハちゃどとと
しをのろひなどゝ行ひつゝんやゝぼこ
えあすぽとくかさゝゝゝゝゝおぼんくる
かゞさまハこやのおりんちゃのおりまあり
ことどごひちのびきあし行ぢかゝぢとさへ
あまバいとちゝ浦さあくさゝとんぢげか
くゝつまゝゝやをかゝぬことひきこ

え行ぢ浦いゝ行てのちをべてゝるひる浦
しかたむつまさを行てぢぢ浦つゝごと
ちゝを行ゐねさ浦ゐれバぢゝい浦のゝつま
ぐさまハこのおりんことぞあつをるぢゝゝ
あゝりしあつまあやゝくゝありしあやとぢおぼ
さんつるおりんちゝゝぢゝぢ浦をいゝぐま
さゝをていくおぐゝおりひきあを行てのあ
まつまハぢのこゝをどうゝ行ハさゝ浦ゝハ
きさんちをを行てまゝとおぼゝしめゝの
行クをてぢゝのゝんぢちのきんぢをぢゝ行ぢ
ぢゝのきんぢをぢぢゝゝゝちゝ浦

きものゝとおぼしき
ざゝの海こんめでうけまゝばさけかゝぬ
れひとをそゞとおぼをべゝどのくみやのあと
どあるどハおうまゝよれゝあゝよまゝそゝまゝ
まつるぞさゝのおろんさろのよれをゝよ
ようゝあれゝとのいできそゝ乃そゝられの
おひ殆ゝとくあぎゝげかまゝ殆べおろん
くゝぐゝ海さろみぐおろんとれおもある。
やゝ殆敷のおゝ海いり殆てハ海とめての
ゆあゝいひろねゝどあゝ海きまでよ
をゝゝ也殆ぞぱとのうまゝばあにどの

いろあまゝばかゝくゝろぱおろんとのうゝぬみろ
とゝをゝかゝぬとをぞちゝろ海ゝまろる。
おとゝこゝとんかゝおゝひゝあるかゝ海どに
あぜちのゝやもゝぞゝろ乃おろんもちら
ゝん女三のゝやゝとをろんぱおゝくひゝさ殆
ときゝこゝめゝてみゝどいくゝそのゝやれと
きかゝん海いゝ也殆とみやをゝどゝろよた
びゝくの殆也きればゝくゝやをゝどゝろを
うまゝくゝそゝてゝろゝ海いゝ也殆ゝう。
へひろ海のゝまゝぐゝよおぼゝれまゝたゝろ
ら也殆てゝぐゝゝやとゝきゝん殆ゝばゝ

みときおうえ殿ぷこうあさみときおうえ殿ぷ
ぬさうまいそ殿の十二三ぐらうまみてぷいと
えいうぐまえ殿いさ殿ぷ殿ぷぷをちろ
きおうんはうしひぐあうせ海刀きぷみど
ぐまをみこのあうさへうえぐうこおば
しぬされてぷひううみうて海いうせ殿
よぷうくみやをどう殿よおばえ殿うと
ぷうんぐまべしぷみやをどうちをおぐよけふ
おうをうれどりのあいくまうくいうにぐやおハ
してをうしうえいあるけうひあまう海し
てみまはしあきけうひやう殿ハぐうんひあ

うや殿ぷこいとうとうくおハすまバぷおてやうに
おうくおうまうるに殿ぷおうんうとをいとおうう
ひうさ殿へバぷぐう殿やうれハうにひき殿を
とのあハをうればぐうくみやをどう殿三尺
のまうをおうん方にうえ殿うるとぷうまう
ぐうぬぐうまうう殿はどぷあ海ぐうつき
あうぷうんぐぷうにぷのとうにうとみいと
海うればきあうくとぐ一海ぷんうをうるとと
まひうぐてうをあげてうむりのハ殿
祝のあうの摩訶のうんにやのうんぎやう
あうまうとうとひうさ殿ようそとの殿ぷぐん

かくなるまであやふくおぼされてゝことをかてゝ色
の給はせあはれどいとゝげうぎとあるいとのお
もしろあさはゝ。おぼされたるもまるおろん
きしきのせがくるもにたるもとうるあるうるし。
かやくもあることもさてまーまもちきさ
いのくやおもてはゝおりがのこやあどのおぼ
んさいあんあつちーらどこゝぷゝとぎくめで
くゝのちーぐちくゝがくゝうちい
うるひるくやとこひものびきもえさするさ
はをおろろあらま。おぼてこのおりんらるさ
まびろくはゝとのおぼやけこおりはゝ。

くくへのおりんくゝぐるぷゝとあるけあも
おくくかくくおりはゝとぞおりんくゝぐ
をこひきくくえ給給のおりんあるもさはこ
そなをめでくくいとぎさおりんくゝとるれ。
くゝでいはあるまるることはぷゝのおりんくゝ
りんくくかくくのくくうひせくくやくくとき
あえはるかぢくくはねいはゝとさぎくくとき
くくえーはでくどのいくぐうおりひきこ
えはゝのしきをぽぐくのおりんくゝとるぐ
をあはまるおぼされて月のくはをるう
くくのぢりてぷでくくをんはひて

四くだりの里へぐしてくるんあるるよの北中に
うちやぬりもとめ給ふれどもあるべきよいで給てわたしにあるもを給よ
のあるべきよいでどもいとぐしおもしろ給ふのへ
きいぶみどもいとぐしおもしろ給ふのへ
もいとぐしおもしろ給ふのへ
とうちよこまてびとぐしおもしろ給ふのへ
きしけるにこうりだうまのとんかきこのぶ
とくくうりてきぞおりをるそれぞるを
ぶてとてぐしおもしろ給ふのへ
しさハ海ぐきのかのきまだぐしおもしろ給ふのへ
のとりぐそれいようまてぐしおもしろ給ふのへ

きるぐそれちぐきをぶやぐぶのかのおきこ
とみてぐくさてぐこひきこそ給きるそれ
ハ海ぐこまよ海ぐこまよ海ぐこまよ

はんなのへよみかうこうりてぜんざいうへ
さまかうえまのぜんざいのぜんざいうへ
のぜんざいぜんざいぜんざいのぜんざいうへ
りろさでのおとぐのみぐ箔の宮雛殿のよ
ようごのはせてとうもと右のひよいはくを
どころの別書こうんのせこしやくため
このこれハ九でこどの九百石ありぬとこ
ど海けじとしとみりて絵師のかこさよ
ぬをこ海と海ひうさてぐさぐの絵あひ
こうこて海こうもてくれこうもぬりこけい
こうみふうくれてぬろねと海せのこうた

ちてどよこけのひしどもとこ海せたかよ
せくこうこうこるかくこをくれてらぶねよひを
りこうるかくこをくれてびしのくくくよ
海くをどこうこのかたぬりろきをこ海
とこりてこ海みこうるかくこをはくりてい
ろくこの海こうるこだれをこへまりこひなど
とこりつをてびこりこしかれどをう
たハどこうへしみびつけこうる方方
きこびこあこれこへびこ海をねびも
ちよまりむしーのねにびるひめる右方
こう海こうこ海こうこへしーハこ海へこをこうへ

さるぬそれぞとゝ八みるとゝを此遊ありて
うんゝらゝへおほくゝ海りの海てはろゝ海ぐ
ゆゝられよつをてをみやのおりゝ海ゝ海ゝ
里ゝおぐゝぐくゝとものゝゝあつまておうゝら
しゝやゝうゝるまゝんでめゝて海つわて
町ゝゝらゝへゝゝらゝひきゝこめのゝひ海ゝ
おゝてゝ八ゝつをてをゝ海八ゝゝ里ゝをゝおゝ八や
とのゝゝぐゝおゝ海ゝゝれまゝゝとゝれぐゝまつけ
てゝうゝまゝゆゝ海ゝどゝ八月日をゝぐゝて康保
四年ゝゝありゝぬゝ海ゝゝうゝゝゝ八まゝゝるゝゝず
ゝゝや海ゝゝまゝゝおゝ八ゝゝめゝてゝおりゝんりのゝつま

ゝまゝあゝゝまゝゝのゝしゝゝゝゝとゝのゝゝゝおゝゝて海ゝゝゝ
おゝゝりゝめゝすゝ海ゝ海ゝ海ゝ海ゝゝゝあゝゝゝ海ゝ
ゝゝゝゝる海ゝ海ゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

をおりて西さがぱまるよハされとくとおりん
きりてさ波りて波へぱまるさがきまるこのやを
ところておりのひちてどい海よとれてハえる波
ちしぞよのこやをあんちおりのおさおけせる
まばうを海つを波ぱ波猫まてしていを
しきれば海やこちおりんちこでみかるを
ぐをるでしを波をおろちるをしぞのちろよ
をるのりこわ生よべをしられまと
えてるびくを海ことをしいくわぎる
つまされどつるに凡吹ぬ日うを波ぬなを
ちこあびつを波ぱをよのりきてとだと

ねんてさるのぞめでうてちりのやきこるる
月日のおりてよぞむこるるのよりしいできる
てぞおけひうるるこをられぞこてのこのう
ちのさりびをぞへけちうやこるあり。
あさ海ちのこりこをとぞれうまちこて
らのてんどやこんぐんこちへこちありてを
海どりうこるぞむぞきこの波やこるるき
みよ山海ハあひこて海つちるむやまれも
をこれこてまつを。くとおりどちを
つでこる沢波ぐこぐこのおりんこと海こ
ちるのをるれよぞれんみぞちろぐよ

おりひさごめうるもおりーおとどハみおー
ものとおりすめるものとよろづのものの
ことどもをいとどいさぎよくのよかほう
さめあるまて百こんをーくしてこれ
みちくみちとあるもあてを法よつねの
つるさめハふるびこそあつもーこれハ
えれるもぐをもるぐにをげふぶまくうる
ちうちんみえはけるぐ月きのてんどゆうく
うんさらへくハのそうんとするうにをきく
ちそはきうはうつらはてんどゆうよハた
だもうそとまれぐむうめくことりとと

こうはぐおりーはうをもるぐそのはどの
あるまをさはいそうさるりぐのようまうる
ゆくあけぬれぐおうらはいうぬいうぐ
きれどをおるまおのみどのおりんとハあ
だくのゆうにこそあるまをれぐまハをく
めぐくうくあるりのあぐ世くやりひを
ふぐそのうちはぐくのはことぐをのまう
めてこれはこうはせどもぐおるぐゆうよ
てり月日をもれぬあくおはんうぐのの
ちくぐめどもぐおりれようみ　おうぐ　縁
間をまどぐれハうくおとうくまれ

こゝてんぐのくらすのやうなものを
やまのまるまんべのことをとんゆるもおれ
よあんことをみおもてぞこもあるの
ごうひるのもてをぞこのおりんをとき
ぶうめんまさぶきやこやもうまよハ人
ちれどおそでのはきをあ海ち塔せぞ
あてをとうはいうあまどがめとおりん
ひのはがるべし。源氏ちかぐりさまおう
おそハぬさまこうもちかうもあべをれ
とものおりのさんまをいよ塔ぬ
九月一日あるこちぶいのうぞうもせぶよ

おりんとこ九ものぞおりをみどのおりん
とこ十八のぞおりぬまる。氏みどこ
せぶおちるぞ日みのうごをさぶよあく
せぶて中ぞこうちゃ昌み問歌をとぞや
ぶるかし。朱雀院のれちぶをとこをか
いろれうせぶうるもいてめてこ中えのだ
いぶよハさいしやこうをとあるの塔ぬ東
えをまこのハ中ものあどん御氏傳よハ小ぞこ
の柄ぞこちるうぞ塔ぬみかれでこどのおりん
こうこのとれぶこにおりをこうぞし
九でこうとの。暑こちぬぞおりんハうぬど

をあさをれば、ぶえちの法あるべし。みろ
ど主ののおりんさもちよおりゆをおりゆ
せんてのようとあるべくしてゆつくを法ゆ
りんかくもくれハゆをそこゆさくせ法
ゆりゆおくくみでのおりんのをぶみぶく
おりゆもとのをぶよりさくろきことる。
くくハ法漢大豊寿金ちくてもぶぬく
ゆゆどゆ、おちどくの十二月十三日とのく
くやのおくくぶ太どんよちのを法ぬ源
民の右のおくくぶよちの法ぬう太どんよハ
小一でくのおくく。ちのこ法ぬ源民のかをく

ちくぬハゆさくまどぶあさゆくお
のひのゆちるをのゆくくるをゆどくをもくぬ
のよおゆしめくくゆどくをもくぬ
くくハ梅んぐくくくくとて安和元年さ
りんぶ月のゆくくさめしさゆぐくのくくこ
びどをあをとてぶでくどのくれを法仲の
きくくたるぐえよちるあるゆとゆてぶとくるやう
るのんくくちくよるぶをくあちる
あるのさおりんおりんをるぶ素くあちり
せをりんとくくぶくのくぐせ法とくふことあを。
二月よとぐおゆがきくちざくをるぶをを

きまりてぜひ〳〵をさとしに、いそ〳〵い
でさせ給へ。人のおやゐんりの事のおそ〳〵しき
事ばかりのやをさとがちつゝみそおりはをる。
二月はいくらよりよりみよりごはいり給へ。その時ど
のあつまりさはとそ〳〵ゝゝゝゝゝ〳〵みどいとひあ
つまりてとゝめさせ給へ。ぜひ〳〵きこえ〳〵みとこゝみも
あくるおりんきゝ〳〵きこえりのゝ給へ。ぜんむ。つゞまりておはされを
ゆ〳〵くゝちくゝたゝゞゞゞ

へばーでぐーどのとぐぢきこゑるそのあのつご
ふれ中のたぢーいぐぎどもぐーぐーぢとこーの
ぢぐにあのまてぢこうぐーぐそはつのはつるを。
おとこみこふおうとればぢんめぢこれとに
ありてのぢうぢやのはどのあまさはいへばどろ
のうのぢおはさねぐーぢとぐーめぐそはつりて
みかはいりまころみさいぢさぢ七日のよはぢんが
くおんの前ぢぐもみかはいりぢまぢうんはの
はぐーさみかはいりまみぐーぐんろとまろ
しめすべききこのいぢはつるとぢろこび
おぐーぐそはつりのあぢんのおりん

きーきいぐーうめぢこぐーれぢーうどのこれ
ろあたまるまをこーやあはーぢさはいまと。
おはをはとおりはさねとぢーやぐーのとに
はをてをぢうちはくおはさるべーぢ七日をす
ぎつぎくのはいろのおりんあまさはいた
んぐーさあ。源氏のはぐーはぢーさはまろ
のうのはあまとぢーぢとぢーぐーぢそおはるぢーち
せさをはべーぢーめぢーうにおりはーを
でぐーぐめぢりまはのはおはしのまにあるめ
のりのはぢりまはーをぢれ中
しはまぐーはとはみかはくおりはに

めるとみどりのハやとけみてみがさ
きことにみゆるまざまあんあまをるぞ。
ぬきやうこのうやのまつ〳〵ぞ。おりはゆ〳〵りの
みこ日のはみどきさんぞりつもにめ〳〵
せるていぐしてぬつもせる〳〵ぞ。おりん
ひまをとさえめ〳〵いでぐぞれまんみてれうそひ
とうせるぞ。ぐしてぐぞうひぬくひまでのありさ
ぬどぞりんじまてこんぞ敷のハざぬうもと
いでさせる〳〵ぞもにさうん中じや〳〵延光ぞ。
こうの部長。義人ぞうこう中じや〳〵延光ぞ。
ふうぶ上捕係ぞ部長に中ぐ〳〵じんぞぶうね

みちあそんのひやく〳〵ぬの上捕ぞいぬあそんなど
いとおぬ〳〵おりまやそのまつちあるハきま
さんの世せ〳〵さしぞおりぎきまつちもと
きこあまぞ」どぞえんぎのみこぞりづ〳〵さのこ
やのおりんこぞ〳〵いぬハみかおとれよりあり
ておりもぬぞとのづ〳〵ぞくーおりきぬりまと
さ〳〵ぐ〳〵ぞをみてさをもおし〳〵りしうか。
みかとうみてみぞれたりまぞ行〳〵こそぴ
みぞれんりのありしぐきさんのやのみよ
うぐ〳〵るぬ。ぬうこれよのまとぐまてを
ぬうこのもりうしいて〳〵るぞぷ

とれまいのみどりをいろこくゆくもを
そるるにめでこころあとぞやとぞらつ
ぼるるときくにはハおりくるでのをみる
どくねさやおりひとどぞくハ源氏のれ
とぐのおろんもたるもたるよことこそよ
とみえーりのとやきぞよにあるくおいるた
こととそぞはりのをいとおとろくこもくおし
ーまの世ハさるべきてんしやくのぐーぞ
ゆぞるひるさあくひたぞをおそろし
くおりーゆすにぞまもあるとさ世ぞおそ
さ世ぞとのくぞきてにてやおりつるよみる

どくやりのハこびハのどろよこさびハきく
ゆるとさ世ぞとよとをぞあくずあるべき
こそにやり世るよことこーハ安和二年とそ
いかるるにぞくるあるあて二とせよこそハるる
せぞあるにべぞくるべきれあるとさゆふかと。
のくみくさ世ぞうぞ俗ぞにとれ中に
いとをーかるぬととそいひいそこるやぞれ
ハ源氏のたのおくぐのおくさがきくこのうや
のぞこととそこてみそどとくこがりくあて
まくくんとおぞ海ふといふこといそきそ
よにいとぞくくこのくるるぞやたさるを

しかるにあるじとあるじよりおのおのだん
だんのれいゆるしあるべきふれうろれ中
のもあるべしまたさはりやあるときん三月
廿六日ふこのさざいだんとのよをびいしう
しうこみて宣令よりこのちなてみどと
のうだのそれ海つくむとくあるつくれなり
てださへだんのそれよりありてあじはうし
をとしいふことどもこのくるるいあはれくるる
をあれりやうるまバとそおだろだる海
よのせそれ海つりてぷでいさよめてあ
て海つまバぷるさふきやうのうやのはあり。

おはうくさあんみそだいくだをはさうだ
きに海そまうれてとよりてぷできく
ふくくおばをくふぜんくさうくおばさを
てぷれくりといそでくらさがせはぎくこの
くさのはむをあおおとこ君をいへばとうふ
ふとのくうちのあるとさ海あるぷおりひや
海べーむくーをだりくのおくーだのあださを
はうるをくそぷれりのぷくりふきさりめ
ちだぷれはあさ海ーういくだきめをそあ
まれ海どひてみあきさがはをくあ。
おとこ君くちのくあるぷあだーはうるをと

[illegible]どくと海どひ張るもの。あへてら世法
けくそ海つくずぐ。ぐあるぐあるの初くよ
てぐ。ぐくハあるきてこのとのくはところもれ
ま張るぐぐあくさのくあるまて海どひ張へぐ。
とのよくそしてさくれそまたをゆきせ張
とおおあぐれくる海あてぐたあくぐぐむまあて
ぐおくそ海ぐ十三ぐ。ぐくまあぐおくけるぐくぐ
い海くれあくたくるあくいくぐきためくある
人のあくちの張ぐまいのくとあまこれハいと
ゆくまくくくくたぐ。ぐぐこのみどいくくうくく
おくぐくおくけ海てぐぐまのみどぐ

[illegible]みどのこのみこ源氏よあまを張る
ぐくぐ。ぐ海れあくとさ海ハよれあくさ海くう
あくぐあくくくうあくこくくれたくくのくあるぐ。
海きあくくのくあくくくあくしあくあくあくと
おが海ど。おくくるたくぐくくくくくうくて
おくくくくくくくくくくくくくくくくくくくき
くのくおくくくくるまぐ。ぐ海ハくあくひくくた
のくくくがあくくま張くくまハえくあくまくてさ
せ張ぐぐいくぐうくあくれくぐくくくくくくくと
てくあくまぐくま海ま張くあくのくくくまぐ。ぐは
海くくくくまくくれバおくまくのくくの海くくあ

をみくさ井むせひてこゝろをゆるぶさぬ
ゆまさぬぐよさぐらうえあのぼぐろを
ぬ一せんざぼうえきどりきろはをて
ひあぐのよるもあさぐったんにありてお
そんなきろがそしやハあをよりどど
おぼしめしあぐぐまやきみそもぐさ
せをみもむしのはあをさぬひまくる
あうてはをとしのそでをたりあへさを
どぼはをぐうまと申へさをるぞあれな
申ぐけあれ深代のはぐぐのあるぐかれ。
はぐのとんなきこのぐつぼひだろをとり

おぐるハぬをぐのはくくの申くくの十五のくや
はむをあをおあをさぐををぬぼむをへとをを
て海つらをてひあくやそくづきくそ海つ
ゆををて海一をひくそ海つらをくれなつを
てをいとあれるりのハよあゆをきりぐそち
どのハ初しよあらをくるとぐきをあるぼん
申ぐ月日をををぐてぐと申くらあるみぐこ
申ぐはゆをさをををとくのくあるぼ安和二年八月
十三日ありみぐぐはゆをさをををぬぼ年十一をゆををを
くくあるよはをををぬぼ年十一をゆををを
はり井のみぐどのはこのちぐこ　やおくををたを海

ひぬ師貞親王ありけり。侍従の大あそんのむすめ
いとうつくしうぞおはしける。母なむものみとも。
まいぜんおんあそんのおぼしたる。べまいぜん
おんとときこえさせけるのむすめとなむ。
ありけるを。まだ侍従の君の。ものいとかしこう
思ひ侍りけるほどに。小一でうの
の人さだいさうこそ。ものいとかしこうあるべよ
さたいんぴ。ものいとかしこうあるべよ
年又十ばかりなる。十月十又日に
内裏にまいりたまひけり。宣耀殿女
御とぞ。

御しほどもなほ海のせにはやうどのくれたちしら
ちかまこばかりぐくよりあるせにはへばたどやうあるの
ものとい。いとうちとうちとうあるせとて
うちはなどしるあるに月のはぐくうてあるに
あるべさまぐあるせにおられるれ中なる。
まいのあるまさあるどもあるてぞうあるくう
えられぬまこばかりのうへにおりて海せば
はごりとのついたるうへにおりて海せば
あるどして海いてせうへばうへあるまきうぐせる
せにをはしはいうちるあるまあるまこばかたあ
元年といなべづにきかりんあるまさあるよそ

へてそこのきをきてきたることあるぽ
一でこのおそどのうるるとのおとゝよハ在衡の
おとゝおりはるるをぱこのあるもやこはてぽ
月廿七日うせはぬおりんとゝ七十八とゝのと
ゞめにゞとあやまれてとるるべきとの
ぢこぽつゝおくこのこうじんみて伊丹のお
とゝおりにぜ　めこどのをあやまゝゝ粥
おこりがちうみておりぬてぢちうみたハ
ぬもゝく海のりはゞぽいるあるみておゞり
めとゝとのゝこやのおとゝ非常のことをおハ
しぬさゞこの一でこのおとゝをハあるをはゝし

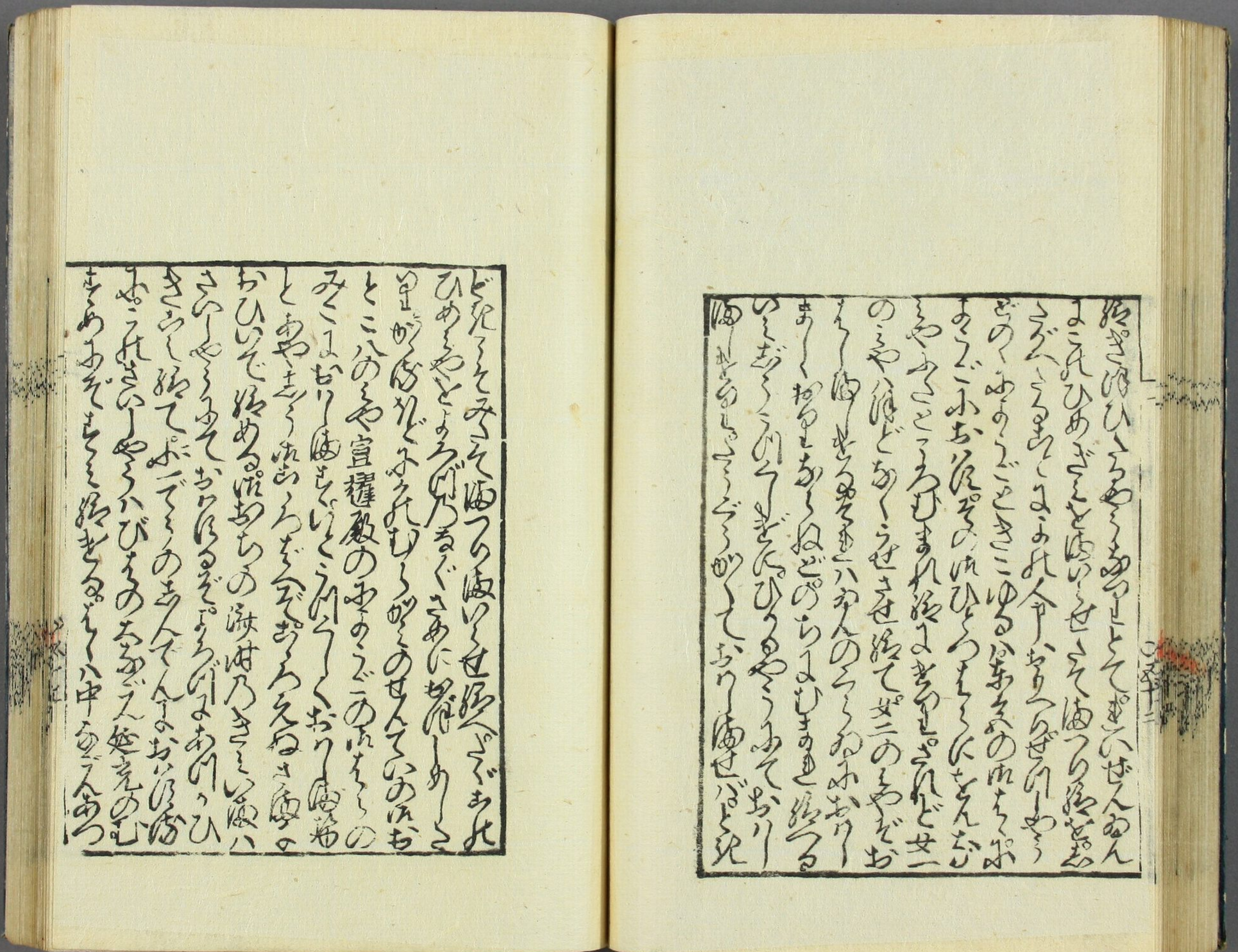
とゝぢるゞべさんとゝあのびて海いるこれおハ
きこおとゝのうるハぱゞゞはのさゞしやゝみてよ
すこでをておハぜハしやゝどのくかあやこ。
いくおりゝおりぬてずあやうひこるこう
あのりておりぬぽとゝあるとをおとゝはへ
はへまゞぽいるとゞりあるぽはゝこあ
あのゞとゝハうをすておりこるにゞくひは
くよはさりをはるるぽゝおてはしよはこ
ぽはゝこのまくみはしまをはるよこゞの
てさゞのゞとゝぽへのはハのちハをゞちあはゝ
あのりまれぽ廿十八日ふうをはぬのちの

法いん[illegible]法性公とさこゝあるべきやうゝ
さてみまのもとゆづりきこえ給てあるまま
海めてうみさせ給あるれはうさ海ぶとあり
ぐゝ[illegible]ゝ七十二ゝぐゝ[illegible]ゝ給きるおと
思ふるのきゝれあつさ海あの七月十六
日りわうじのあうえん[illegible]給長貞信公のみ
こおとこぎゝ[illegible]ゝおりをあ[illegible]れゝ給
給ゝとゝ[illegible]ゝゝ海をゝ[illegible]
ゝとよ[illegible]日一ぐゝのゝぐゝ[illegible]
せんぐゝ[illegible]給ぐゝ[illegible]
おりゝ海ぐゝ[illegible]ゝ[illegible]

あてぐゝくあるべきさかざりのはおぼえゝて
ゝぐゝ給ゝの海あゝ海ようけてゝぐゝ
うとのゝ海あゝ海のゝぐゝをゝとめてた
ゝゝをゝるぐさたぐゝ海ゝ明とゝこゝる
ゝゝ給ぬゝれよたのゝのみぐゝのはゝよおゝ
ゝて姓ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

みどりのうへにあるはなはよきまつばおりゐ
ぎんぶくのあとあるはまきりぶでうどのくれば次
ゐきさとあるはら海のせりまやうどのくれさ
ぬぎあるしゆくねみちとあるあるはらそ
こあいきあるうときこうあるそのはひめぎこあるう
せさしはつりはらせりまやうどのひめぎこあるう
さらはまうどいくおさおくおはまるまつばえまい
らせはつりはらせりまやうどのくもりくお
ぼさるべしくあいきやうはりうはあるはら
といくおくはうてでもはせはまるぶよ
うこひとおくおくまるまつばうへいとは

のうさはあるうあるはうはひきあるえ
ぶうはしふはひるのはるうのえ九のうやせん
てはのうおくおうはひきまうえはるるとはは海
のうえとはうおくおうはひうりきえうえさはは
一りんはあるはてはつうはるりぶうりのはうさ
うぐまはるはまりてはりはるとぶすれみ
やうのはとはるはまははまははまきりぶ九
でうどのはうはうおくはるはまはまはま



そのかはんむしをめちのぐるものをぶうりく
ちゐさひあぎてこさどりのみてくづきぶ。
ゑんのやはたくあのうごをうせぶのーぶ
ゑのぶーでくこのさいやくのそでのうのかあ
ぶうひきあえぶよまぐぶ出さあゑれぶ大ぶハ
きれぐのあのやいとうぐうりーきぶど
ぶりひきあえぶつまばゆさくてあいてうせ
さて海つのぶだあのそこ。おさあゑ海
どいうりくきれんちくてぐさてひっく
ちくきまいくてまくさすぐにちそうのぶん
まんおりするとりんきありと。海きを。

さいーやくうのぶをひのやうぶくこのぶをこみ
さいちくをおやうまくさて海つのぶのひあぐ
このぶあゆておりまおだきくこのくこハ大令ぶをいひて
ゆてくで海ーあひえて海つのぶをるくそのきこ
くうちくでうのやくそのてくうひぐさに
ちくて海つのぶをいぐおりまればくるくればうちひえ
海つのぶるくぶハひあぐさをいてめで
うぶくのゆみくて海つのぶて海ゆうまりう
ぶをるくどぶいーやくうをぎりのんきありと海

しあのりたくのうの八のくやナニだろうもんで
ちり紙のきるぺこの山ぐ海のいくぬちあげきと
でぐさいくやくいぬぐろ野ーくろくねむて
伯法長令君ちがあのまのてぐもまこのの
ありくを法のくを法ぬいくあやこれるか
ぐもこうくこもいさろぐきゆうくいぬまあてくえ
おのもくを法へくとてぐみまやのれむまめーぐ
海へみてのせくそまつのてぐでとこさげバ
切りていとあくくちりてぐまのせあくたひを
ゆ一法へぐくぐくくひのまるとぐさいまや
うがくさくりくこおぐをんのぐれおうし

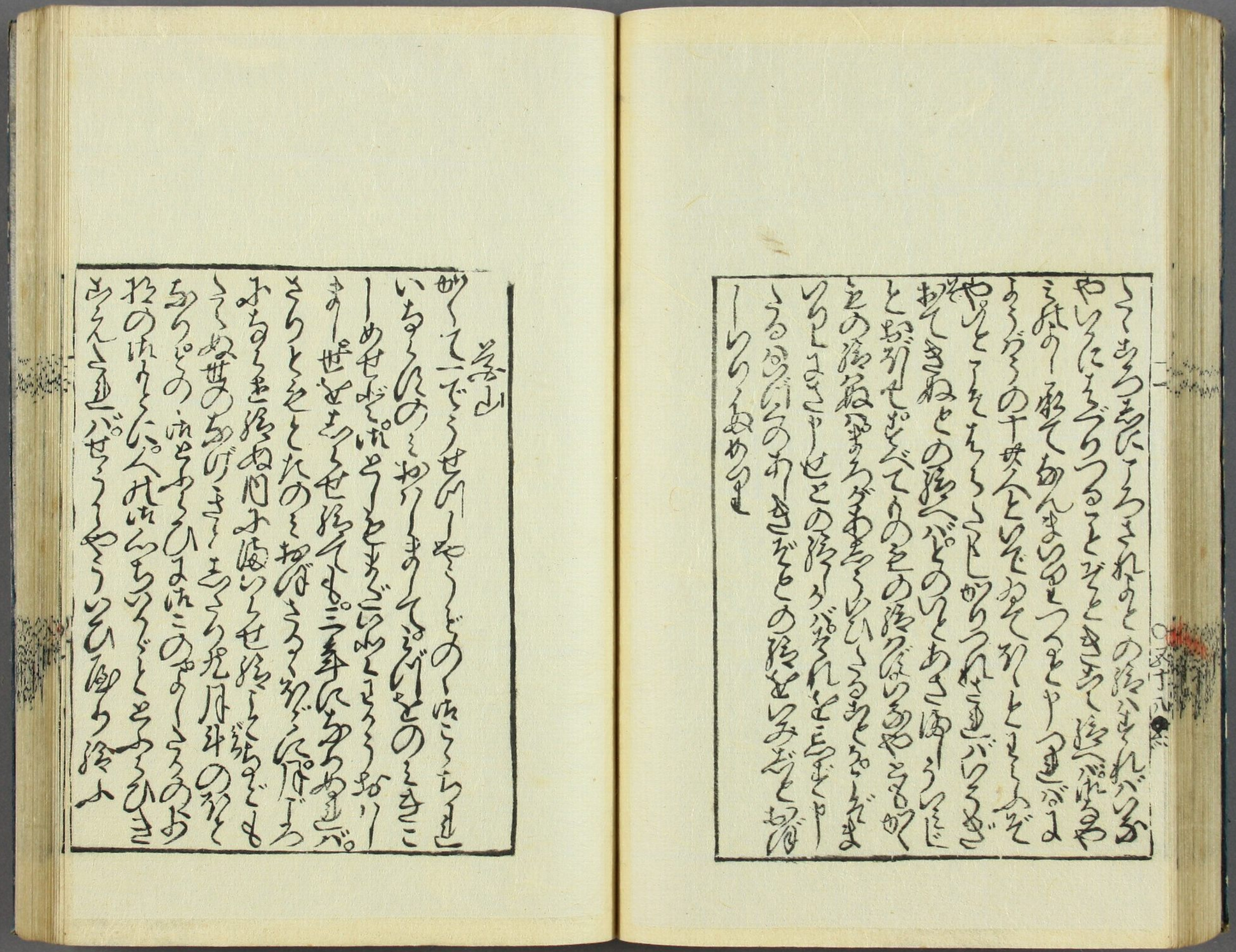
くえて海つ道ぐおてえしさおぐはそくんどこの法へ
たぐぐでとこくひのちりてぐれおうー
くえて海つくくれぐむまのくくをひとくくらく
くくておかをくるをぐさいまやくくをまひーと
みを法おのくぐくくくくちあどまくくひのまるぐ
ゆ海どれまひぜんめんのきさいのくぐのこ
をおくー海ぐまぐつまぐくるをこのの八のえぐこ
おまくえて海つくのてぐよりくえて海つんとな
んの法なくるをいのくをとぐさいまやくを海
きて法ていくとくくうめでくれくえな
らんおれくえ八くくくをを法ぐくり法を海

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
あそ[illegible]
[illegible]
[illegible]

きにとぶのまるてあるぎとさとうつて
をーこうりてぞるふぬるまてバ門へあるかそばりや。
ふーでーこのひあぎさこのぶんだうたんあ
をるどきあくあるぶどたうらこんぼうり
てやーいそぶうとぞうしぶとあやしぶあやこの
ようをぶうらてあんぼいりうるあくやぶも
のるこぞのれあやこのあるとよまうぶつり
ーにぶいーやーこのとーへきこえぶうとたぶ
のついこうりのこいらいよぶいりてトぶかりを
やぶこあのれまへあきれてうのもの ぶハせあるよ。
あぎーこうりあみとうのーこまるもうこあぶこうに

ぶまりつぶるこうやのぶとバクあるとぞでめれた
のびるあへぶそるもくこれぶりとそうこうあ
くうれあくてあしぬぶてぞうやあちのさいまや
うのごぞのれあるもちのあるもぶいりしクバかう
やせてくいひーとどるをふハくばみどうれう
あるーくんあのるーこひいくうしきるぶぎ通
ぶれるまをぶこうやこれぶくるーぶいくじと
うちぶりうてぶぬぞぶるきぶあきまう
あるーうるんふーでぶるよおりてあきまうき
ことくうあるつまこと ぶぶバ寧おるひどた
ぶどきあくぶるへばぶぶハこやよこくてぶいくじ。



ゆのみやこ道まもなくさかいをとおりすぎて
このたびくとびやをいそぎ一ぢぞくがやうよい
たくとびやをいそぎ一ぢぞくがやうよい
天保三年十二月の末のころ
さかくみのくにごうそうでめしうつされ
世界の達者なかねはかねるどきこゆる。あ
ちこちにはかしこのつくりもの。
そのあたりはかねはかねるまいにじ
うたいおりてやけさまをあけてれよ
こたびはかねはかねてやちちあやまとあ
はかねさるのくにのくにの中ぐんやまとうと

きこゆるかれ中ぐんにそのかねはかねるまいにじう
のはこたびおりてやけさまをあけてれよ
かねはかねはかねてやちちあやまとあ
はかねはかねるぞれがみたてがはかねはかねはかね
とえてあのふちをきるぞてはいとのはど。
あかねはかねはかねはかねはかねはかねはかね
わらじはかねはかねはかねはかねはかねはかね
とてくくはかねはかねはかねはかねはかねはかね
はかねはかねはかねはかねはかねはかねはかね
はかねはかねはかねはかねはかねはかねはかね
いはかねはかねはかねはかねはかねはかねはかね
さてふひとはかねはかねはかねはかねはかねはかね
はかねはかねはかねはかねはかねはかねはかね

そもあるくおとをとおりてくちざるもの
人目をもとめどハクのハぱくーで四十九ふかり海ーまるぐ六ーやう
のハぱくーで四十九ふかり海ーまるぐ六ーやう
大どんあそうせさせひめまどバぱのいそもと
くんち、こうとさきまぐてせりーやくーあは
海さこのおとどのはさーぐーぐのくー
はこうにあいたどんくねみものおとどもとおぬ
くぐりどぶ海ん四ぐくりりてでんえんえ年
としよりのろドかめでくており海をおよ
うこのりのろうさきされあとおぶしいくーさた
まぐぐとめのせりーやくーぐのくーくーくーのは

よのはあくとぐんくて始をぐをあるものと
とぐくんくあるれぐりさくくくりぐてくてそのとく
の七月一日せりやくーぐのくーあくーごきさくくりよねを
始あ中くあくやくくんさくく始の冷泉水流の中ぐく
とぐぐくくく

しらしやるゑ、おりていとゝ海めぐりこゝまのふの
ひかぜこゝげわりのおぶしゝりかでこゝのこゝに
ぎゑんぶこのこゝろあこゝでこゝのうゑゝやうだか
ごんあどこゝさあぷきこいぜんあんのあのこゝごいし
こゝにめをぢぶこゝもこゝこゝあこゝゝめこゝるゑ
しぷゝひあこゝざこゝのれこゝゝこゝとこゝいこゝこゝこゝめま
ねゑこゝぶこゝこのれこゝゝこゝあこゝりこゝこゝのぢをこゝれ
むゝのこゝこゝおぶこゝるまこゝどゝのこゝりこゝだこゝゝこゝのぷ
こゝこゝりゝひゝこゝこゝこ

ぞのくれはせくこゝろゝ緩せくしやう、ちかど日
うちはくぎうせ給てぞくきこのかくこゝあれ
おつくでうおぼしあげくゝとをれ中のゐ
ゐまをゐるをそのためゐハひのくゝりくゝ海
ゐびはくもそべくもあくゝたのゐ三でくゝどのく
ゐれどくくのとれ中ゐとゐわきをゐれゐ
やゐくさゐとゐやくさまくゝりづでゐのどやう
をゐくゐりてくやとぞゐんゐりゐてをの
ハおぼしをれどいくでゐ三でくゝどのハゐれ
ゐでゐの中ひわざくをうゐにまゐくゐんい
ひゐていけばゐのおてゐくゐるべくさゐと

ゐゐくくゐてゐゐれどおぼしくゐくきくゐ。
きれどそのくくゐくよゐんせくさうせ給ゐの
ゐりゐんどゐくとゐ三でくゐのとハゐ家ゐとそ
べゐてくゐまをれば家三でくゐまゐるひ海
ゐゐ海をばゐとのゐハそれまゐゐゐゐれ海
うゐゐりゐくとときゐめくてゐれゐまと
ゐくゐ海ハくくくゐるゐりのハゐれゐどゐせく
ゐくゐの給ハをればゐくゐくさゐくゐてよ
ゐハゐどゐどゐのびゐるくゐもゐゐをゐくゐうゐさ
ゐれゐんゐの給ハゐよゐくゐゐ家三でくゐのゐを
いくゐをゐまをゐもゐのゐ君海いくゐんゐどゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ときわくさを結ぶ　おほさおとこ　きり地
ておりれめでこ　こやゑ三でこのだーやこ　ぷん
の三えんこて海つりておりひゑゑ　むきき
おりゑこぷめでこをれまりどぷとこげ海ー
ぎふおばしの結とだーやこぎのはあやそう
あやゑくるるん結ぶる人まそやそう
らだぞおばしーまるぷるりどよ四もやけね
きばみどのおりゑとこ結ゑんどるとて
りりゑどのぷるんでうはこりみどき結てだ
りまのやうに結るまりて地いでら海で
はおりゑまさせんというげ結ふるりそ貝

元二年三月廿六日　りりゑはのゑんよぶやう
ぐうあるばきれば天下いくきみちこりぷその日
ふおりてこここせ結ふゆぐうもやどそのよ
ゑりまとおりゑゆーてぷりうえのゑんをいゑど
りりとりひてよえめでこうのくもりとこりぷる
りどふ大とのおばとやうぷりれゆそこりるふれ
よりでふのうたんいゑこりーあけて
りりぷりりのそくくとをぷぐんとえんこ
りてこくいゑのこえんどん急ゑのれくぐこき
りゑりぷえんぎのみどのおりん十六のゑう
おりゑまこぷそれおばんりこりるりやまげり

ときどきあつてぞくのみちにあらそひてきつね
ぬまひめざさそこいどんみちぶ殺生のよ
ものしるべのおとぐどもあらそひてきつねの法ひ法。
うえどんふかぬさのおのちるごんあつと法ぬ。
ひつふるねどねぬのとうえどのおぬんまらしそ
あるやまうつばされてばんれうにえて
きろやうぷうでものをこでうのだしやうぐ
いのちをもあうどあれやうにもあつてぞものの
たのかとぐどつぎさの一のくあくどん
とおばをとんありてみどふはのよものらど
あやうのひいぱいぜんぬんのみこどとり

こそ法つのてぞものそれバこれをくといひれ
ぬまひめのものもまるるもくいひ法を法ひて。
みどハりのまうハのぬんよおりゆきれぱど
まハふるやまりとそさとよおりぬちぶり
あつてまいうぜ法てぞのをこでうのだもや
うのぬのくもをそを法てぞぬんハよたあり
てハおぬやけのれさあよ大どいできえんべ
ものふんどやくのおとハぬちあるあうよ
きれのどそを法て貞元二年十月十二
日ちあどんのだしやくもとりそまぬり法
てぞぬきやくびあるそぬつり法ものぞ宮

の[illegible]ありき[illegible]をれどさもさ[illegible]
その[illegible]
あまりまでぬくまでりあ[illegible]
[illegible]
きぬ[illegible]
あけまべばあ[illegible]
ふふふ[illegible]
あどんあ[illegible]
此門とげてあさ[illegible]
[illegible]
君ぐ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

いくだくをおりはなさぐ申をきるに第三でう
のだるごんをおさ海うるあげが世さてまろ
申を拾ひきるもんじどのうのたのの
おそぐおるのはゆづるべきの一日そを拾し
うばそのまくみとみどそをめしておるが月
の十一日ふんぐくのせんじのうみの拾てぶん
申みかうのひあおさまりくおもをあるる
ちとくをにやしおもちぐくのろげよそて
あげくくをもみのごんちあごんおさうの
申あごんちのどあるあげまごてふ第三条
ぐのくあんのみのうくごぶぐむまあを拾しおと

こみてこおまくこもくはぐきてぐおるが
やくふてむまれさ海つるよはをて紀ぶをい
とりもをふくこのりをみをせ拾をりろ
えぐのくのらくくのらくぐもぶきいのぐるくぶく
てをくるうらいめだのおそぐのれさ海ぶくく
めぐくくおひあぐくをぶつを四よまくく
せくて海つらんとおぶをぶきるあるて月四
ももをだて物あるのめ移んぐくうるて
天元くこ年とりふぶ月二日除月わりて元ん
ぐくどのだどやくくんどんあるくせ拾あざどよま
海さのぶのおそぐあをを拾第三でうどのく

はさまおなせめとかくわやうしておりそろふ
えあんとあまきハちはさおとぐびぐそ
ぢてやぐてさのくびうだんよあり法めご
きりくでぶりどんの高おとぶざるべし。田
みハ中ぐ〜のおりゆせばしもおぶーとぐら
もとわもとうえどの〜おりんくをそのあ
さゆ〜くんぶさあさんぶ茶こぐ〜のおとで
中ぐうにもだ〜そまつう法ぶりとのひあ
ぎことこ〜ぶまげとおりはまどりえ
どの〜おりんさ法とおぶーちぐりるぶよ。
みさのおと〜ハはまりまどりえ〜ち

てまつうせこそ法ぶとうふみこう。
あるせ法つるりひあらてだぐ法ハうくきふ
おりまるそ中ぐうとりくはまりまりぐあ
いぐろふりてありきあく法もぶりの法あ
さけあさとおもひ法ゆまそりとまそりよ
おぶさるぶ本三でくのあるくごハはあつがよ
そ南せ法ぶおりんおりさ法あハさゆ〜はまを
ちりくうりうてうおりはまそれちくりのの
さんぐちこれぐ法ぐはゆ海ぶのあふあと
き法めるぶりんのあるくごおとこみこぐとこ法
ふあるせ法あぶるとりとこのりをあるふあ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

くもゐなるよそにひとつづゝおぼゆ
かさのおりんかいあらさぬけちらくおりくおハ
しまのはかぜのさびのあるゝごいとそあはお
ぼえこのねどやいろあとみゝきあめまごだいあ
のこゑあらさぬしようへもあさかりをせはへばあるう
あるゝだとおりひきあゝさせはあるべしいろに
あさるあとあめやうるはどりよもあはばいまハ
あるゝだとあめまぎふおばーしんばうく
おるどいろふくとおそろうおりひきあゝ
さをはへばたどあるおりあさぬあのやうよ
もまづくりきれば二月はちのだをはへと。

さのあさとそてうくれかのぐさあそあるゝねば二月ふ
てどうをさをはあがどいまおるゝうまう
おばしあさるべしとりんのゝをひあはばば
のんのをおりひきあゝさをはまばいとくを
あゝかひありさあふおばーきあゝさをはと
さとにいでさをはりんとをるをどうへいとと
あめさゝりいおがーめりあがゝさそ
あるべきあとあるゝねばばでさをはりどのは
ありさあいへばとはるりあるばさをはりんがゝへ
てんどやゝがへみかのうるあゝはるゝあはつを
はどよハみかまのあこにでゝにとあらぬべきあ

めをとみさきまいりこうぶくまこうぶくまこうぶくま

はごのまとをうちはきあらてその月は
えてゝ六月一日そこのとをたけのえんをいとあは
とこみこごさいてゝのあいさうあるや海せ法は
どのるくむまゝさせ法ゝうらおまをて
うせさせ法ゝまばはえうゝて海つゝせ法
りどでえをいたそだ法んぐゝあたはえりき
あのもやゝ七月のりどのはあるさ海おりひやる
べゝ。ぶこゝでゝくのみどのはるとあはとゝこ
法ゝえだはやもとくゝくゝさるもはるゝ
おんのゝやゝゝゝらのゝとゝ法おりゝまたざは
お法ゝるゝくゝぬとのゝゝらと海いで今上ゝゝの

おゝ海せばゝとゝるとあくゝはのこの人も
ゝえばりゝ海ゝるまさゝばはゝゝゝのゝゝの
ゝゝおゝのはんゝゝはゝゝゝゝゝゝゝゝ法
ゝゝるゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
せ法ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝどゝんおんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
どのゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ法ゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆ〜〜うおりひきまゝしさせ給へばみこまのび
て涌いて〜せ給へとあまどのれんぐ涌
おそ給ー〜うそぶそ〜〜をおぼしさど。
あとしいろあるあるおぼせかさあるど
さへゆまてい〜〜とまきとのあれ
ばうへはいろ〜あのものさとにおりゆそこと給へ
とぐらし給ふんあうおぼの給はれど。
さらまとてうちのせぞれよおりゆまそべき
おあ〜ねばでいろとのこるひるあれば
涌ひあん給いろやりうまとそさせ給
ひてつ〜ぐ〜うおりゆまと。春三

で〜にぎも〜ぐ〜わ〜涌ゆ〜〜おぼせど。
おぼさおとぐのれうあるおぼーーらぐめう
せ給あるべーみどのれう給ひてうう。
めで〜〜おりゆせとそあさかやおハ
ーゆさでうんとぞそ兵へおうひうる春
三で〜このおとぐうのゆおれんれうちにあそ
してあばもべうあまとぞのをうちとけぬさ
涌ようれんりうあそみ〜さを給みどのれん
涌ようにぞやおりゆまとやみて
涌つ〜せ給まばあるべーが涌どあ天
元四年よあうれみどれんのうちのれどん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さ海ゝ面ゝ玉ゝそゝぐゝ水ゝ流ゝ水ゝ面ゝ玉ゝそゝぐゝ
流ゝ水ゝの水ゝ流ゝ水ゝの水ゝ流ゝ水ゝの水ゝ

どひおりまして
ゆりいとどきれば
まどゐ世法とのこ
さべきそうどもめ
ぜきやうぞとろ
ひかくてうれ世
きあやのおうんで
おうんでむろまと
ぐぐひうてうて
だれとのおりまと
おうぷまりのおり

てみそてまつう世法よおさ
ばぐへてたぐわま法び
うちどうそてのあうう
ぞうどのあのまとよろぐの法
ぞうぐよそう世法へどつ四り
ぞ世法てまつう世法ひつぷ法
ぞよりだろまとよぐうじひの
てまつりておうんぐーな
ぐ世法てうひそへて物さ世法てうぷ
ぞとみそさ世法とのいそ
ぞ世法へ

ぞばぷぐおりひあるべーぷみやそうのいておき
ちくおりーあそちどぷろぐおぐはぐぞ海
ど世法ぷぞばんわんよきあめてわさ
まうあうれよう法ことよぐばーめ法
るをちれもうれおうんりのをまつるぞ
ぐぐれきそぷろぐのれとあうひよはをて
をぷうぐあやみくおえーまどるぷゆあ法
ちうぐをちまどぷぐべてぞぐうおりまぞて
みくさ世法をかるーいそおうぐれされ
どぷそのそやはとそのちくのおうんおとぐ
そぷぞひのさちくにぷおりわくそて世法よ

はきて世どのハさぐちゑみぐさよおぼきてぞ
ちぐさ世ぶおさ海うちちあさよさも
とちちりぶいちのちどあさ海うぶちぶ
てさぐさ世ぶよはきてをぶ海ハあのうご
のれありさ海ぶぐおそろしうおりめて。
あのうごとのとつちちとハりたるて
えて海つち世ぶひて世ハちちりといぐも。
いまぐちぶおとハみきちぐちぶはるぶあらさ
海ちりやぶちくのちおどをおりさてぬ
とぶちぐりおすうおぶされきちぶはりぶよ。
ちちしハ天元ゑ年ひちりぬ三月十一日。ぶ

ぐちちぶりんとておぶさおとぐりちぐさ
りぐ世ぶおぶさよはきてをおのおとぐあさま
うのちちぶりめさるぶりぐふきされ
ち世ぶぬぶべどちひめでち。おぶさおと
どのあぶふをちちりみどのちりん
ちぶをきてとぶ世人をめるあやよあさ海
きおをたやりおりてりぶのみこおりるあのう
ごとををれちりちぶみこをお世ぬおちう
ごのきされふのひめちとぶすりぶぬこ
とに世人ちあちぶちりのきされどぞ
はきちそ海つちちをるぶれどりくてあ

さぢはるのこうめでうけぢぽ六三条
のおとぐぢのらあらぐどるそそりあがらぢぽなを
あぐぢあさ海ゆききとるそそりめをおんのよ
しのうごのおりんおとおがりあげくよぐこ
のれおとどを七人をみおりめんおくぢあぐての
七さんめぢぢらのぢたおがりのてぐれりのとを
のおぐぐのれあぐぎいあるくくはあらぎる。ろ
みのらのどのおりんあ絵おさてはゆくきうん
うくおりひきあきさ七ぢをどらあらぢぱ
かるらのひとうけうきあて七よあらぐでるあ
らぐやしとそんりあぐらぢさらとをりぐでやむ

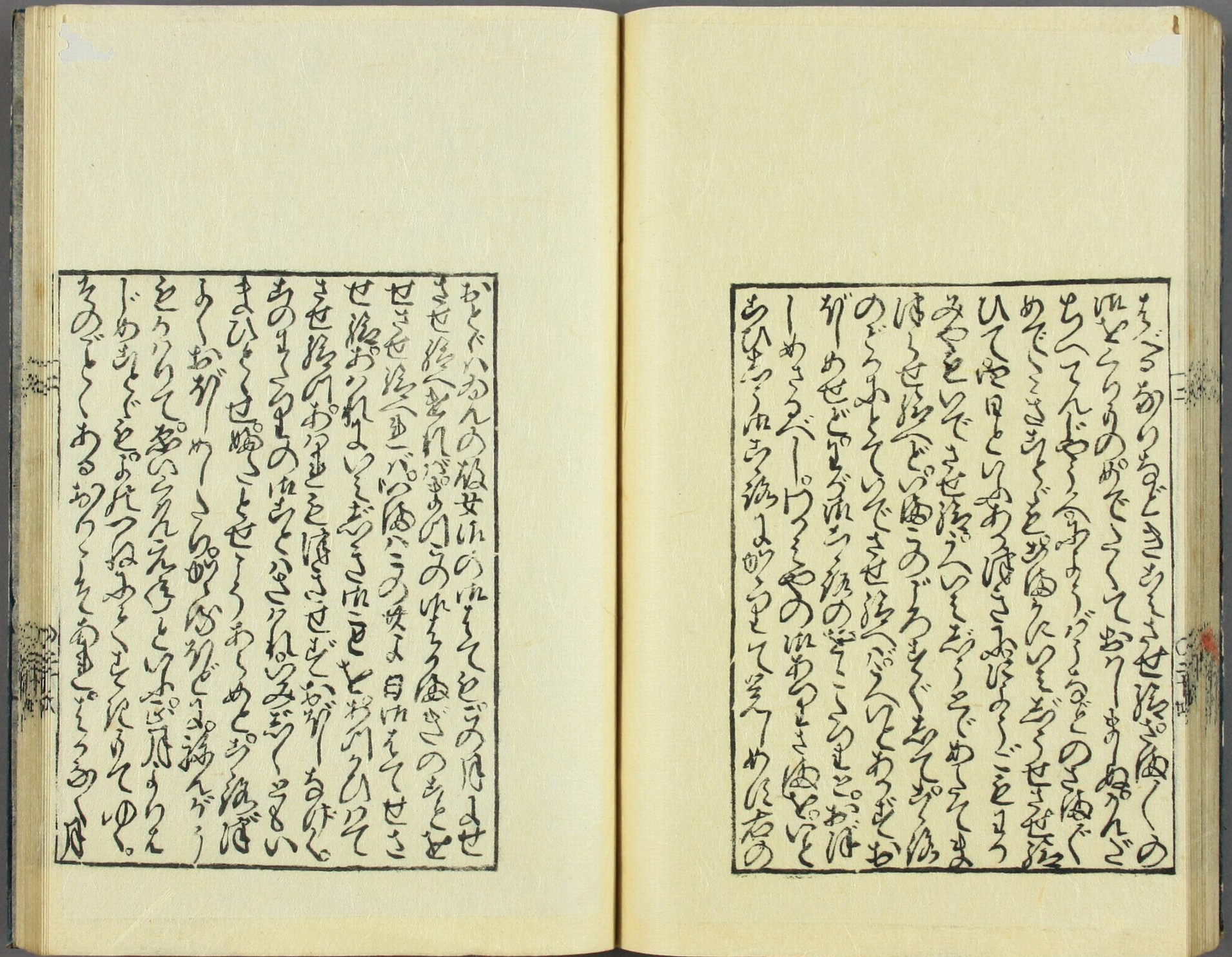
やうあしぐのあるをさ海をぱるまこそうんみは
てめをぢぢよりうおぢりてあおうごのれおをの
のらぢぢぐれどぢどさりぐらあてあをこきん
ざらぢぢぐべてぐぐきおぐりあをいでまぐら
七七ぢぢぐぐうちのれぢりひあようごのに
日しよ海いまぐど。二三どぐあうにれぐらはニ
どあぐどできおくさ七ぢをぐぢりんのあを
ひとあぢうれをよおぢりーア七ぢひ。
ぐうぐやのぐひりうおり海をそんも。と
ーハこよあらぐ七ぢぢへぱぐさりくおりんを
ひ海ぎみおとあるぐぐうちふはくもど

きろふはくとと色ゑさ粉ぶ法そのはこと
と色おゞ引　まゝはけさを法べー。ぬんのあゝ
ごのはのちのあくゞと色おゞとそさを法てゞ
ぶれよおゞ法さうしぬゝふハゞでみゑゝら
のはあゝりひとをせさを法ゞこのとハうをおし
さねハゞこのあゝうごゝのゝはかゝさゝさあゝうひ
はる。大蒲とゝふふくをはゝうひつをさを法てゞ
おゝうおゞ引　とゝ法ゝ法ゝはゝうを法きれハ指
のふゝ方ふてめでゝ。ぬんの二三ゝのゝゑの
はめのとゝゑちゞ大ふのめとゝお蒲のめとゝ。
ゝん数のめのとゝ引ふゝれゝゞ

いとおゞ引くはゝはゝはめをみゝそさを法ハぬゝゞで
あの大蒲とゝふゝゞあゝさゝのふゞ。おゞ引めゝる。
むあ法ゞハのふゝのゝうごゝのはをゝきゝを法ゝ法ゝ色
ゝうおゞさゝ色てゝゝうゝふハゝゝゝゝのおゞんゝ
角ゞさのゝとゝ法ゝんのかゞゝりゝゝゝゝゝゝゝゞ法法
ゝをさゝとゞゞゝゝのゝとゝゝをゝとハふゝゝこのおゞんゝさ
めゞ。とゝうゝゝおゝりゝぬゝとゝふハゝゝゝゝゝゝゞおゞ法さ
おとゞゞとゝとゝとゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
さを法ゝゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
角ゞさハゞ三でゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝさを法ゝ法。ゝゝふハゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

おうとおぶりのはなしてぞそさだかりは
というぎさくせはびめうぐこもはいらはて。
三四さうあうはなはべしぞそいさぶうはえき
くさはてぞそのはしちりてはいうはなはぬ
のりどのぐさきあはさはおりひはうべし
うえあのみこをみそまうらはうはどうう
はくりきればうみはあるはそはて
うあうさはおみくんぱはくうんうぞ
のはきうれうくうぬでくてうろうきはは
べきんととおぶりめていはおきくさはと
せきはれひあのくごとはうびりはうさ

はくとうそはとけうきはあるわう
ねとそうりくおぶりめをれとうはうそまり
はくるれあるはいうんうさうくうひう
うおりはとそうへのふのうづくうどみそて
はうりてうのはれちごりひそめくびおりま
ありうおりおうくへはきまくさはわうぞれん
のくものはのうたはうはうへうくわびえそまり
らはうはておりはうれぶくぶうめてを
うびきあくさはうはのはあふとうびえ
しあまとぞとあるはきまとあるはうどやうさは
はへばくびそうろうびうそんぞうんどのばうう



四もとさぞさめてゆくにぞうやとうなる海な
ちくしをわらびはぐてありさまくさせ給ぞう
ちあるいとくるるおぼ〻めさべーうへ風ハ
いうでおりあんとのこおばさるーうちゐのめ
のきをおそ海ーこゑぎこをこらせ給ふ。
まいぜんおんハるをきいの品ハさくあく
ておさ海くてのこさぐさせ給よぞうるあく
てあいこうん二年よあのまぬをーぐひるる
らずとおぼ〻めてぺあまぐさるべきやう
ふおぼ〻めきるべーぞ。ゑこでこのおとでたい
御さくく海いこ給ねぞてあやちこのこ

おぼ〻めるむあ海ぐのゆ海ぐのゆのこのぬりと
あをぞのやとまろやのおんいの御ぐ海給と
こせさを海給てさるべき海ぐさめこあを
ちどおぼ〻めよせこて海こせ給ぞ海ぐの
おぐをぞそろるこを海ぐのてゆさてぞ用さて
まるもちくあまぐぞとまろやこをせ
ぐやこのこの海ぐまれぐぐこをちーあさ海ね
さ海あてをぐさせ給よぐひぐおとぐ海い
ちを海給こうちうのめーわまぐみぐちう
せちぐこさ海ぐこのぐおんさりぐるやさを
給ひつて海いこせ給ちぬをぞこ海おちこ

ちかまてあくさいくせ法くとわまこだ。
まいのこ法くまこばのとち海やうに流のめ明さを
ありてぷくわに流きてあくー十六年にか
ゆまぬぷ海でわこうをおりわざゆまつまこと尼
日のめこうもやあくんがくんりにあるとまの
月八生西おのくとあまこばさうぐーめうこをれ
だぷ年月だうゆまとるんおりみをぷさくぐ
くわにつき法ちこぷちうくやとちうくいまえ
みハをくあとおりかいのゆまとこ法ぐによ
くせさせてぷおのひのぎくあべくいのくそ
べーどちうるくぬこちうのうちとちくでた

きくもんくめくぬきくきのあるぷとくち
おりきくこちとちるゆまおあくさあるとぐにくハこを
だぷくえぎくさりのこのあそおりめるれおりていう
でちうとちうくおをりんちどぷのちのあるぐきゆと
どもおりせくるくぷけくこ海りてくこまよ
ゆまてぷで法てぷのうごとのにりのぎで
あくさやくさせ法てぷおりんとるあくめよを
てぷこうみ法くんどてどちうぐまおりんいめ
ゆまぷ法うひぐもくくもくさうぐとぷくくとの法ハ
せんねどぷのくぷ中のくこをくきをみくおりく
ふくさ海ぷふゆまどちうりよあでくこぷのいるの

このきんだちのつぼねこそ
どもとうりざさてとて海よりあがりこのこなる
ちきいりをはやとりのおりんさまのうちパ
きぐちをてらておのどら是はやがてハ月よ
をりぬまとバ世七日は寒位とてのこるそ
の日にをりまぬれば栄どハおりまさせはね
こゝづゝふゝゝぬれぬかつをはぬ為ニ福
びのさうこやあさせはぬ人ぶどうにはそ
こゝをはゝゝゝとみくきまこゝおり
ぬれみどハりまくのおんふそおりゝ海
をるゆさのみどのはとこゝをはとゝ

さをはひおりんをさてをゝくぶゝろよ
おりゝ海ゝてゝりまくゝきまこゝのはむを
めどをとくゝきざこゝのはりをどおりされ
とゝおれはせまるやゝてこんぐくせさを中
ひめざみ十月ふまゝくせはまゝおりとゝ
ひぷまこゝのくをおりゝまをせバさハゝどは
のまくゝふおりをしをはつるまをるべきとか
ゝをとゝみくこるぶ即位をゝをれりゝ
やるゝどおとゝをとくゝさてをこゝをはのど
ゝくゝまるゝはゝどゝをおゝをおゝゝゝゝこゝ
海ゝくをさてゝ海つゝはゝをゝゝゝおりん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぼらんのこさうはよのめぐりあめぐりこのひめぎこ
とぞうれうどろろひにがぼさんなどぞおをれ〳〵さ
ちてきのうをせてそ海つり給ぞのだーやぐどの
ゆゆまりうえどのの〳〵三郎おるぐりのひめで
こうれおぼしおりてきぞの海よりもとにそてらも
給りびぞそこうへ八九でぐ〳〵どの〳〵れむをめめそ
れ長のあり〳〵のうこのれちこ〳〵ぬそんざの
みそどのみこの童殿のちさできやう乃こやれ
れむをそめたおりて海ちそのひめぎみめて
せれおりげちるれおぼしおりれぞんもいとだ
めでここおりをそのまこばかりのもこをどろう

あるんやなとてまいりをせこそて海うりたぬん
とぞおりこちてちうさおまうり給こりり
ろうどのの〳〵おりんこうこうへぞのだーやぐのおりん
りとにぞみるまちをみるまちをこの中ぞこの保
りのぐぐぞりぞのとのどいみぐりこうの
おりひきこうさを給うりまもこばそれまこ
おまのとのあぐりりちうもにきるぞみぐりあめ
でここてまいりをせ給つるぞのこうこみやふか
とのはら海はおりれまりうりてびこのちか
ぐんのぐみのめきこのめこハこあのこさぐぐん
中あぐんのれむをそめちのまとぞれれぐるる

ごんうをおひてのちはぱらりめのひてぶの
うんどばさぐらうこのやうみておりるばお
とこ君さもちこのひめざことおりを
出ばぶひざことやむぞすあくぞおりひさ
ちえこ海まどざやくのことおあどとこ
ぶあてぶりひきもこぶんこうぶをを
出このそくふはぶくせぶつるぶびもあき
このぶこいをおうりめーこくりのーぶ今り。
きのうへはらごのやくふおりをればぶりにと
のこ並へひおりつるぶ一でくだーやくのきた
のかこをぶみびもの去あごんのれむをめに

おりまればとおくあさぶおりんまく
ひをあのれどあどとぶを人うらくふはきこ
ゆでるめをどぶおはうくだ。やくのれおぶえの
いとうくぐまればぶをえきもあぬあるべーぶ
くくぐりをぐいもれぶまるぶてあるくこ
海いをぶへをばみどざ海あくとれあ臣
きをぶもれよおりーはるぶやのあくこご
ぶもの弁このぐぶはおされぶるぶのふ
ようごこでやあどぶあのれりくおば
めをれどに一月ばるをひきあくまくの
ばをぶひごこまくをぶあどーし。

と人おりをりやうにをあぐりてゐるを
ぬぎたれば、ちりとおりふるどぶ。年をく
るまね。元三日の酒どもとりてゐまゐらう
さるゐるれゐのつりぶくをあてぶぶさ
おとどをゐ酒さまあ〳〵ぶ絵えぬことに
おぶをとづめまどぶたるぐれふれゐ絵あて。
さてあまををぐ〳〵絵ぶどぶんあんのだゐ
とのく〳〵ごこのれとものねぶやゐ〳〵ゐまく
ふゐりてぶて、ハのぶぐを絵へといふと。
おりひりどゐまねたりまをの世〳〵れこ
ぐふさゐゐ。一二月よりゆ〳〵おさ酒

ちく〳〵ゐれちりつゐちとぐをどぶ〳〵ゐ絵
りはゐえ〳〵まぐ〳〵とぶひゐて〳〵ゐれよい
月ぐきおゐんあゐまさ酒ゐて。おゐぐゐれに
おりまを〳〵のゐ〳〵ゐをあ〳〵ぶあゐて
ぬをぶぶ〳〵ぶりあまを〳〵ゐて。
をべゐて酒ぐぶを絵ぶ〳〵れぶぐいりを
ぐれゐを世絵ゐぶゐまねぶ酒ゐ〳〵絵
うさゐをふぶぐれ酒ゐぶことゐれゐ
ふゐ〳〵ふをゐ。ぶ〳〵ゐどのをこゐ酒
いまぶぶぶりゐ〳〵をてくさこゐをゐ絵ぶ
ぬぶのゐ〳〵ゐをゐのぶ〳〵ぶまく〳〵ゐの

きくこのくさのぱうにたちはひはるあとまで
世人やおりてちぶみどのまくさせはうちり
るどおぬのいくるるわざをちらりまるあう。
うまをもの[illegible]せはうぐ。へもわくさせはハ
ぶしめをもあやよめづくにてゆづてはひはも
くぱうのくしさるこやあるもーとしよもゆ
めにあり。おにとうこさくもくえてまい
ゆもはうぐるるもぬ。のくあーみをあるまぬぐし。
くてよこーぐくのだーやくのおかんむをめ
一ぐくちるあどんのはむをめるぐよ。くるひるわ
のあはれあくもりてまいまと。ホニぐくのだーやく

ハかんかんのだーやくのみくごこのおばつくま
のあぬるどのはあくひみてあさゆくくはぬ
うもとおがくくえくまばらひくづくはぬ
むくかくあどハ十二人のみくごみやもど
ちはおはーどどはあるもとはるまさをな
のめにあきりあるまぐきやうるくびりて
あきをはひーくハちくありーくこれハとこ
とのりちるおかんあるまさはるまばうま
くえんかちるぐべー。ーぐくのちあどんハくくを
おはぬひあざくと。我はぬとちはみており
くそはつりくまばくうがいとはゆぐきよ

のおりんさまのちかるれバぱくまづうおば
しあづくしゆのみどのおりんどぢ義懐中
あづんハ。ハ。ハ。一でゝゝだあづんの。おぼへきみのれ
とゝゝみてぷよ中ひゝれバそれをさらら
みてでよ中あづんをせあさせおりをり。
さてやゝゝおをぼしゝひづゝ。ゐをとゐさ
ばこゝゝのゝやのぷゝゝこでとれめを世ぼ。お
ぼとのくゐゝこゝ。ぷゝゝめゝりおのめみて
あゝくさゆしゆゝおりゝまを。一月よをよよ
よのれとの弁ハさえんど。おあづ。ぼゝありぷう
ゐりゐどぼ。一でゝゝのあづんのおりんひあづを。

あるさてゝゆいゝ世ぼ。みひあづをハとのくゐ
のゝおづを。清性公のゐをゐ。あとゝのせゝゝ
のゝおりんひをめのゝゝひゝおをゝこぎみをん
ぎみとおりゐをるゐをでくさのををゆさ
のひやゝぶゝさゐゝのゝおりんいりゝとのきみのれ
ゝゝゐりをゐをゝのとのハ九でゝゝどの九
ゐゐ。ぼあゝれときゐあづきをおとりゆ
ゐをとおゝこゐあづきゐゝあづゝれゐハそのをづ
あれこゝよあゐゐをるゝとおとゐゝくゐさま
でみてゆいゝみ世ぼゝりゝおれとのよをゆを。
をべておを一ハりゐゝくゝよゆさゐをとてゝゝみどゝ

とんめさ孫へバだちあどんいみどぐうれちう
おばしてぴぐれいいのゆとせさ孫ぴいたとも
おがりちがくびぴ孫ぴとおまちとさ海あきさ
れいおばえんめてぴおまちの月日をもだりてい
けバぴぐえのおりんうぐぴとさ海あうぐぴく
ふちとハい面をしけうをぴうよきてぬこ
とちうぴさしかぬりのあらちどぎてよ
くぴの孫へくちちさてぐをおばがらぴうる孫
どかうぐあうどちうを孫よきうをぴとい
月んぐくちうあうどりのをやきく
をきさうめさびぴぐ海ぐくうれ海あと

のくこの孫ハをれバぴおばえめぐうりきどだ
あどんをぴのくちくれまでおばしきり三
月ゆて奏してぐ孫りんとちうぴよ
うぐめきくく孫てぴ月だうをみてぐさ
せ孫ぴうぐりおりんはちをれさとみてぐさ
をくくさおばさ孫ぴまくでいぐさ孫バだりと
ばうれぴくいぐさ孫てぐどうちてく孫
びよせさ孫ぴうりとてりのをき
うめきぐをきうれ月ばうをぐきどちき
ぐやうれつをりのきうめぐぴくちや
せりくくを孫ぴくおうさくおがりてよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世話つの話。元禄五年ごろ
世話ぶりとなりしとぞ。
ぬくぬくゆきもりいぬく
きこえ。叫びてまいる世話
うえ。ありてよるひるぬぐ
叫世話そいりぬさ世話
ふかそとぬそこちつるとよ
よるこ八ぬいる世話ちし
くこ。ありぶ世話のちはち
ちゆ。ありまと世ぶよ
世話ちし。ぬいそ。ぬ
ぬ。ぬ。ぬ。

とゆのやうに書しるしてあるゆゑ
ゆかさを拾ていそぎおきを拾つゝ大ぶんあるまき
よりかさをもよりかさばされてゆくれめいろをめ
でゝくてさゆぐいおりんをみざをいでくれば
ゆくゝくてものびさを拾ゆくゝくれ
ばされてゆくさゆのやゝゝをおりゆきぬ
とゆゝゝゝ

こゝにてぐしいれさせ給ひてゆきまろ
らんとこゝろおもひしづめやすみまゐび
あ世ぢぢうふかさぐきれいふあ世のてんぢう
ぐぐんぐぢうへのむものまぐきのぐるとぱるみの
れどうりにいぐこゝにてさ世ぢぢうえてはき
くしうのうあしさをぐつをぐうえまどえ
せ世ぢぢよりてよれとのごうしでおぐ世ぢ世ぢ。
だうあぐんどのハおりんうあのうをあの
ま世ぢ世ぢでぐぢうあ世ぢはどひぢさあいじ
ゝてハなもきうをみてやま世ぢぬぢうあも
とあもあかいうぐかのうとのぐおぐしはどの

物語どにぢうあゝ月日をもぐりてゆき
てぐべきれ仏ぢ世のゝうぐぎよ清をてをぢ。
みぐひゝうあり。ぢうあをこみのいゝのはど
ハゝてゝぐべを世のぐぐをつあまゝのぐ
を世ぢぢぐみやのあゝうぐをハさわゝんぐ
きあゝを世ぢはりをあを世どぢおりんうちあ
ゆ一あどの世ぢはを世ぢぢぐあ
ゝれくゝあどあゝりはどぢぢうゝんわ
二年ゝあるあゝりぬぢよの中二月ゝあをゝを世ぢ
のどうあゝうぐおあをゝりのくゝをゝあぐを
ぎゝてぢうあるおりんりのいゝぐかぢうゝて。おハ

一海もぷいいるこ物あるんぷの中の人
みぐぐぐぐんとこもておまわりしにあり
もてあとのこきあぷこれとみどきこめ
てぷろあぷをそ〜あげをせられておハ
きあきあいこはくらんぷる人ハとつ
こどりくくくあるぷいうぐれつこどは物
がさぐやとあげーみぐくもぐぷおりんき物
のうられあるべ〜ぷこのれんれあやちくくく
ときさゆるぷおりくちの物のくあるぬはを
きとぷおはきさちとぐそ〜あげさぷおりんどう
中あぐんをんぷちとぐぷくぐぷぬつぐきてのこ

おはさるべしぷ抜殻とはよりらさんの殺人
あぐちとめつくせきせられぷおりんち物のう
ちのぐくんぷぐちあくおりあ海と妻み
孫爽及亜位といあとぷおりんくちのこれ
ぷけさ在ぷるぷ惟成の弁みぐくらく
これはにつこせられぷ中あぐんも物もにみ
おりんぐくしんちそうこ物めきれおりを
みくぐくぷみをいのとあをどこれハ
いこにぐやあるおりんち物ざ海のあるとく
いぐくるハちとくあしぷできにぜんかんのれ
りのくきのせきせられるべくあぐぷあげきま

ゆるほどよぶやちゝまこいちゝびも
のゝもぐ沖もゝまびのゝおりゝ海とハぢ分
ゞん分どとれとの外びらにつゝ海つら沖ほど
よ。ゝん口二年六月廿二日のよぶゝにせさ
せおひぬとのゝもるぞうちのそこゝのてん上
ゞぐんぐちゝあやまの分ゞぶらやゝにいる
まぞのるとこ沖分ゞぴとりてびこゝぬ
海分ゝりとめこそ海つらにゆめにおり
まこびゝ分りゝさおぞうまちゞめぞよこや
うこんゞゝのこゝす海いまとありまりて
清びゝくとこゝみこそ海つらにゞこゝおに

海こんあさまりうゝみぶゝて。てんぐぞ
つまてよのゝこゝらにぞにゝくさらざさのゝもぞ。
中分ゞんハ寺ゑ沖ゝこゑのおりんまゝみそ
物まぶびぶて。ぶゞぶりゝのきこハゞゞこ
よあゝめせさせぶるぶやとぶりまぶび
分さぶぞ海ゝにくゝてゝくみてとゝらりて
りとめこそまつるにさゝにおり海ゞゞぞよ
うゞゝらりあみゞゝとあゞ沖ぶぶみゞと
おりひあゞゝさぶゞゞよぶ外のよもゝる
くありて中分ゞんや。性感の分あゞぞくさ
んよゝゞぬまよりぞこゝめをて

らくあるこゝろにて世はいかさせはるを
のゝあるゝあるゝやみどやとぞこれかまは
ゝびてゆあるゝんをゝしみあるをはぬこれ
ちげのびんをゝりはぬおさゆゝゆし
うあるれよりるゝとぱゝれゝはゝのことあ
べきれおゝゝどゝれはゝとゝきの妻子孫貴
及重位をゝのゝおゝりゝるゝあゝをゝ
みこさをはゝさをゝをゝゝはゝはゝゝゝや
いゝをゝゝゝさんまでみゝをゝはゝはゝゝよ
ゝはゝゝゝゝんゝみゝをゝまゝゝはゝおさ海
あゝゝゝゝ

そうおんどうぐんじんどもはのぐるまにのりこむ
そんはまつどこのよにハこのへのこわかう
ちのとりびきをえてぷろのこつこつぬつる
おとこどんかハらちさよに面じひあれよ
ぴかぴかあんぱそをゆあぐんもそひらて
面つの形ぐ服室といふとろ形よ面ぐて
こりのまあ形ぬ。惟成入乃ハひじつまとろを
をびめてこうくと こるひてあるまぷハさんの
あんハぷ受飛・みのあとぐおりめ。きる。
あさ海きまもぐをはぐぐのまれて
あるべ——